

私たちが、向かい合ってきたのは  
突然やって来た放射能災禍に  
何を、どうしたら、ととまどう人々だった

私たちが、耳にしたのは  
子ども達の命を助けたいと  
涙で訴えてくる母達の願いだった

私たちは、かの地の人々の思いを受けとめ  
何ができるか、話し合った  
活動の記録は、その時間の積み重ね

個々の思いや行動は  
自由に国という枠を飛び越えていく

今、君が目にした戦車と爆撃機  
君が描いた「戦争」に  
私たちは向かい合い、返信を送りたい

## 支援15年 新たな連帯を！ 地区病院に機器支援



68号 夏

## CONTENTS

支援15年 新たな連帯を！	
チェチェルスク地区病院に超音波診断装置を	
20年目の対話「チェルノブイリ 医療協力と文化交流、15年の歩み」	
チェルノブイリ事故から20年<神谷さだ子>	6
未来への架け橋<横山香>	10
ベラルーシへ絵を送ろう<森ひろの>	14
イベント運営に関わって<国井真波>	16
2006年度理事会・通常総会報告	18
彼の功績を称えてーりんごの木と黒パンー<小池保寛>	20
モスクワ便り	25
連載随筆「水際からの光」<宮尾彰>	26
ジーマのロシア小話	28
イラク支援「緊急薬品支援を続行」	
第4回アンマン会議報告<国井真波>	32
黄色いミモザと赤いハヌーン<西村陽子>	34
振替用紙のメッセージから	40
JCF募金のお願い	43
ありがとうございました	44
出会い Встреча	48
ニュースクリップ	58
Здравствуйте! (事務局広場)	62
本の紹介 Book review	64
おいしいイラク料理「ドルマ」	66
事務局日誌	67

## 20年目の対話 チェルノブイリ 医療協力と文化交流、15年の歩み



### チェルノブイリ 事故から20年

豊穡なウクライナの大地。ゆつたりと春夏秋冬が繰り返えすかの地で、突然、火柱が上がった。

1986年4月26日未明に起こったウクライナ共和国チェルノブイリ原子力発電所の大爆発事故から、今年はその20年の節目の年に当たる。日本でも、もつとも被害を受けたベラルーシ共和国でも、事故の記憶は風化しつつあるのが現状だ。20年の歳月は確かに人々の生活を変えた様に思える。1991年から、医療支援と文化交流活動を行ってきたJCF・日本チェルノブイリ連帯基金の活動を振り返っても、たぶん5年ごとに関わりの質が変わってきた。

ただ、15年間の活動を通して、ロシア・ウクライナ・ベラルーシと日本のさまざまな人々の交流があり、忘れて

はならない人々のことを日本国内で伝えたいと思った。

放射能の放出を最小限に食い止めるようと決死の作業に当たった消防士たち。2000キロも離れた風下地域で、日常が奪われていった素朴な村人たち。子ども達の健康を心配して、遅れた医療環境を整えようと奔走した医師たち。原発事故について、汚染の数値・健康被害の症例と数値・移住の社会保障リスク・農地の生産リスクを引用しながら、私たちが語ることは、そこに生きたひとり一人の人間の『いちの事なんだと心の深部で共鳴している。』

4月8日から5月7日にわたり、広くチェルノブイリを伝えたい、と形を変えて、一連のイベントを展開した。行事が一過性のものに終わることなく、参加された方の胸に何かが伝わり、

新たな芽生えに繋がることを願いつつ企画した。チェルノブイリの投げかけた問題は、大きい。原子力発電所の正否、構造的な欠陥、等々。科学の進歩が人間の生活にいかにかに寄与するか、し刃の剣のよう備わる。その上に、私たちの生活が築かれている事を突きつけられた事故だった。限られた誌面では、語り尽くせない問題点を持ちながら、チェルノブイリに関わってきた。これまで、まったく関心を持たなかった方にも届いただろうか。風化しつつあった記憶は思い起こされただろうか。

毎日の生活が、汚染の大地で繰り返される人々に思いを馳せてみよう。

4月8日、23日に行った「チェルノブイリからの伝言」での基調講演やシンポジウムでの発表を聞きながら、JCFがこれまで目指してきた科学的

な調査活動に基づいた的確な支援の舞台裏に何があったか、改めて気づかされた。ゴメリ州立病院を初めて訪れた信州大学医学部の小宮山淳先生をはじめ、医療者たちは、何が問題かを多角的に捉え、必要な支援を組み立てた。そして、それは、チェルノブイリのみならず、日本での他の場面でもいかさされているのだ。

15年間も続いた理由は何か、とよく聞かれる。「それは関わる者たちがアバウトだったから。細部を問いつめな曖昧さが、活動を広げていったのではないかと思う」と理事長と共に笑いながら、答える。医療者のみならず、アーティストたちや一般の人々、さまざまなつながりが、活動にふくらみを与え、相互に刺激し合った。

小さなNGOである。実現できたことは小さな範囲のある部分でしかない。志したが頓挫したプロジェクトもある。壁は言葉や生活習慣の違いなど

## イベントアルバム



現地医師と衛星通信を通じて会話する  
小池健一医師（4/8 松本市美術館）



貝原浩画文展（松本市美術館）



本橋成一写真展「ナジェーシダ〈希望〉」（松本市美術館）

盛りだくさんのイベントに、たくさんの皆様のご参加ご協力を頂き、無事終了したことを感謝いたします。

以下に若い力で企画運営された二つのイベント報告をいたします。

ではなかった。政治システムや空港での税関の厳しさに、気持ちを腐らせたものだった。たたかれても、たたかれても、現地の信頼できるパートナーに惹かれ、8000キロの旅を繰り返してきたのである。

イベントに併せて、鎌田理事長と坂田明さんがCD「ひまわり」をプロデュースした。

30数年前に封切られた映画『ひまわり』のシーンが蘇ってくる。夫を追いかけて行ったウクライナで、彼には新しい家庭ができたを知る。列車に飛び乗るソフィア・ローレン。失意に打ちひしがれた彼女を乗せた列車は、ウクライナの大地を疾駆していく。車窓には一面にひまわりが咲いていた。その時、ウクライナの村にあった原発（火力発電所？）はどこだったのだろうか。パネさんの澄んだピアノの音が哀しい。そこに坂田さんのサククスが、放

心し、乱れた彼女の心をつかみ取っていかのようにかかってくる。

ウクライナの広大な地に広がるひまわり畑と原発。こんな所からもチェルノブイリを知っていたらいいと思ろ。CDの販売利益は、チェルノブイリとイラクの白血病の子どものために！。

一連のイベントの準備のためにベラルーシを訪問し、事故から20年経ったからこそ浮上した問題があることを知った。甲状腺がんで甲状腺を摘出手術した子ども達が成長して、青年期を迎えている。小児期の摘出手術以後、ホルモン剤を飲み続ける副作用が出るか問題である。これまで、世界に例をみない事態に、小児甲状腺がんが一般レベルに下がったと言っても、問題があることを指摘された。そして、今なお46歳以上の大人の甲状腺がんが右肩上がりに増え続けている。

これまで、JCFは甲状腺がんについては、96年以後、取り組んでこなかったが、今後どう対処していくか、議論を進めたいと思う。

また、ベラルーシの経済状況は、ずいぶん良くなった。しかし、都市部と地方の格差が歴然と広がったと言える。田舎の地区病院と協力して、医療環境を充実していくよう調査活動を進めたい。具体的には、理事会・総会を経てからになるが、これまでの成果が、今後イラクに生かしていきけるよう、チェルノブイリとのつながりは細く、長く、緊急ではできない人と人との暖かい交流を続けていきたいと思う。

（事務局長・神谷）

## 未来への架け橋

— 10年前は高校生だった私たちの今—



司会をする岡本佳央さん（左）  
渡邊加奈子さん



1996年ゴメリ州立病院を訪ねた、松商放送部の生徒とタチアナ医師（左端）

### スタディツアーから10年

松商学園高校放送部のメンバー10人がベラルーシ共和国へスタディツアーに訪れてから今年で10年。当時17歳だった私たちも27歳になりました。10年前のベラルーシ共和国への旅は、私たちメンバーにとって社会人として進むべき道を考えさせてくれた宝物となっています。メンバーの中には「伝える」という仕事をしたいと報道関係に進んでいる人、多くの人を支えたいと福祉関係に進んでいる人、みんなの笑顔が見たいと花屋さんの仕事をしている人など様々です。今でもメンバーが集まると10年前の旅行の話が必ず出てきます。良い思い出の一方で、もどかしさ、悔しさ、恥ずかしさを感じているというのが本音です。というのは、JCFの皆さんのご協力で行かせていただき、あれだけ素晴らしい体験、心に響く経験をさせていただいたにもかかわらず、この10年間で何も関わることをしてこなかったからです。未来への架け橋を誓ったのに、そこで私たちの活動が止まってしまいました。

かわらず、この10年間で何も関わることをしてこなかったからです。未来への架け橋を誓ったのに、そこで私たちの活動が止まってしまいました。

### イベントの運営進行を

イベントは、映画「ナージャの村」「アレクセイと泉」の上映、本橋成一監督と作家の田口ランディさん、大学生、高校生によるトークセッションというものでした。このイベントの運営・進行役を仰せつかったのです。他のメンバーや放送部の同期などに声をかけるとお手伝いに8人が名乗りをあげてくれました。それからは、台本を作るなど、皆で集まって、当日まで準備をすすめました。

### 上映会での私たちの役割

イベントには、多くのお客様が見に来てくださる、高校生や大学生も呼んでいる、少しでも若い人たちに何か

感じてもらうイベントにしたいと、「未来への架け橋」となるべき私たち放送部OBならではのメッセージを込めたつもりです。

何度も話し合いを繰り返す中で決まったメッセージは、「いつチエルノブイリ原子力発電所事故のような事故が自分の身近で起こるかわからない。もう一度私たちのいのちや暮らしを一人一人が考えてみよう」ということでした。もともと原発は、人間が便利な世の中にするために作った人間のエゴによるものです。原発だけでなく、もつと身近なところで見ても、人間の暮らしの便利さを求めるが故、次々と物が開発され、増え続け、自然が破壊され、動物を必要以上に殺す、などといった人間中心の生活になってしまっています。そして、人間が作りあげたものが、時に凶器にかわり、人間を殺してしまうという事故が増えていきます。

その大きな例がチエルノブイリ原発事故ではないかという結論になりました。チエルノブイリ原発事故が起きた20年前は今の高校生は生まれていませんし、遠くで起きた問題のように感じるかもしれませんが、私たちの身近でも同じような事故がこの先起こるかもしれないのです。

上映する映画「ナージャの村」「アレクセイと泉」に描かれているひたむきに生きる人々の「いのち」、私たちが10年前実目の当たりにした後遺症がある中で生きる子供たちの「いのち」などについて話し、会場に来てくださった方たちにとつていのちのあり方を考えていくきっかけにして欲しいという想いがありました。実際私たちが自身も自分に何ができるかわかりませんが、少しでも考える機会としました。たわけです。



10年前「ナージャの村」撮影中の本橋監督をインタビューする松商放送部

若い人たちはどう感じてくれたでしょうか？

続いて行われたトークセッションは、本橋成一監督、作家の田口ランディさん、明治学院大学の小口さん、松商学園高校放送部の吉沢さんが、鷹野和美さんの司会で意見を交わしました。田口さんは「原発をもち、湯水のように電力を使っている自分たちの生活を見つめるべき」と会場に呼びかけるとともに「ひとつのものの見方ではないけない」と素晴らしい意見をくださいました。原発についての問題提起などもあり、会場に来た方たちにとって良い刺激となったと思います。それぞれがそれぞれの思いを抱えながら会場を後にしたのではないのでしょうか。放送部の吉沢さんも「事故のことを知らない同世代の人たちにも、身近なことだと伝えていきたい」と話してくれました。少しでも未来へとつながる機会になってくれたのだと嬉しくなりました。

### そして当日

当日は、高校生や大学生、一般まで、多くの人が集まり、補助席を用意するほどの盛況でした。

映画「ナージャの村」と「アレクセイと泉」の上映、被災した村に残った人たちの営みの記録に高校生などの

### 新たなスタディツアー

10年前ベラルーシ共和国で感じたことを松商学園高校放送部として「伝える」という役割をしましたが、その後は私は何もしてこなかったのが現実です。今回このイベントの運営をさせていただくことによって、もう一度チェルノブイリ原発事故から学ぶことを考えさせていただくことができました。放送部OBでもこんなに話しあったのは、10年ぶりといっても過言ではありません。今、私たちに何ができるか、何かできることがあるかははっきりと分かりません。何もできないのかもしれないません。しかし、二度と同じような事故を起こさないためにも、チェルノブイリ原子力発電所事故のことを忘れてはならないのです。

私自身便利な世の中に浸かってしまっています。でも、人間のエゴを少しずつでも無くしていくために、小さ

いことからやっていきたいと思っています。

チェルノブイリ原発事故から20年、そして私たちがベラルーシ共和国を訪問してから10年。社会人になって数年の私たち。もう一度、ベラルーシ共和国をこの目で確認してこようと夏にはスタディツアーを計画しました。高校生のとほきに感じたことは別の何かを感じられるかもしれません。

もう一度、少しずつでも私たちにできることを探していきます。もどかさを解消するためにも…。そして「未来への架け橋」になるためにも…。

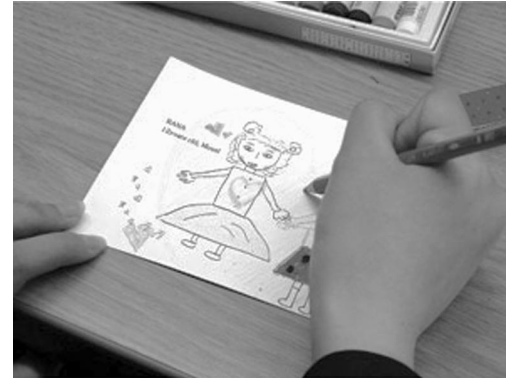
横山 香



(松商学園高校放送部OB  
テレビ松本ケーブルビジョン)



昨年の秋、プジシチェ村を訪れた作家田口ランディさんを囲んでのトーク



4月22日（松本市美術館）  
ベラルーシへ  
絵を送ろう

森 ひろの  
（信大附属松本中学校3年）

私たち信州大学教育学部附属松本中学校国際交流グループ12人は、チェルノブイリ原発事故によってベラルーシなどで今なお苦しんでいる白血病の子供たちの姿を知りました。こんなに悲しい現実があるなんてびっくりしました。今の私たちは、なに不自由なく暮らしています。すごく贅沢なことに思えました。

そんな私たちがこのイベントを企画するにあたり、事務局の方々と協力をしながらまずはイベントのポスターを手書きで作り、沢山の人に参加してもらいたいと呼びかけるため、市内の色々な所へポスターを、張りに行く活動を始めました。

原発事故被災地の子供たちに絵やミサンガを贈ろうという願いのもと、1つのイベントを実現することが出来た喜びはとても大きなものでした。

当日はまず、JCFの方が、子供たちに分かりやすいようにと、絵などを

使って白血病による後遺症で苦しんでいる子供たちの紹介をして下さいました。また、チェルノブイリの子供たちと仲良くなるきっかけとなった曲「山のごちそう」を覚えてもらい、みんなで手遊びのようなリズムで歌ったりもしました。参加者全員で楽しく盛り上がる事が出来てよかったです。

その後は、切れると願いごとが叶うといわれているカラフルなミサンガ作りや、水に特殊な絵具を垂らし、不思議なマーブル柄を紙に表現できる作品作り、ラナちゃんが描いた自画像の隣に手をつないでいる自分の姿を書き色をぬる事など、それぞれのコーナーで、思い思いの製作を楽しんでもらいました。

またロシアの子が書いた絵を缶バッジに制作するという交流も持ちました。参加した小さな男の子の「僕が大きくなったら、お医者さんになって助

けに行きます」というメッセージもあり、何だか心強く思いました。

今回、作ったミサンガやマーブルの手紙は、今年の夏、チェルノブイリ連帯基金が主催してベラルーシに向かってスタディツアーの際に届けられると聞いています。

病気で苦しんでいる子供たちが頑張ろうと思ってくれば嬉しいし、手にミサンガをつけている姿を思い浮かべるとは、このような交流を持てたことに良かったな！という気持ちになります。

様々な催しなどでチェルノブイリ原発事故を知ったり、考えたりするきっかけとなる、ほんの一部のお手伝いをさせていたただく中で、私たちは今回沢山の事を学びました。

とても有意義な時間を持つことができ、中心になって企画する部分を任せて頂いたことに、心から感謝しています。また、これからも、このようなイ

ベントを開く事があれば、積極的に協力し、参加していきたいと思っています。そして、チェルノブイリ原発事故がもたらした悲惨な現実を伝えられるよう、もっと勉強し考えを深めていきたいと感じています。

事故によって大切なものを失った悲しさや不幸を少しでも埋められる、心のこもったあたたかい交流、それと同時に世界中の子供達の笑顔があふれることを、今、強く願っています。





## イベント運営に関わって ベラルーシとイラクへの赤ちゃん支援の道

国井 真波

「4月の1か月、JCFの事務局で働いてもらえませんか？」

神奈川県川崎市に住んでいる私がそう言われたとき、何の迷いもなく、と言ったら嘘になってしまいますが、「神谷さんや布山さんが困っているのだから、なんとか力になりたい。」と思い、了承することになりました。

私は2002年の冬、看護師として「医療者スタディーツアー」に参加し、チエチエルスクのポレーシエ小学校で健康診断を行いました。それ以来、居心地のいいJCF事務局に何となく通い始め、年を追うごとにその回数は増えていきました。そんな矢先、冒頭の申し出があったわけです。

たった1か月とはいえ、事務局の3階に住むのですからいろいろ不便が生じることは承知の上です。家から運ぶ荷物は大きなダンボール3箱分。しかし不安や心配などは全くなく、ドキドキしながら松本滞在を心待ちにしていました。私はJIMNETの活動のため3月24日からヨルダンに滞在し、



アンマン会議で現地医師と国井さん

帰国した2日後には松本入りしていました。

イベント中の私の主な仕事は、「市民ギャラリー」の展示全般と、「ナジエージダ」の受付・物販です。それと平行して、芸術館や東京イベントの準備、CD「ひまわり」の予約受け付け・発送などなど、仕事はいくらでもありました。看護師の仕事とは違う面白さがある仕事に、毎日ワクワクしていました。

事務局に滞在してしばらくした頃、私の中で変化が起きていることに気が付きました。休む暇なく働いている事務局。それに引き寄せられるかのように、何かあるとすぐに集まるボランティア。チエルノブイリの報道に心血を注いでいる信濃毎日新聞社。気が付くと、私もJCFの魔力(?)に囚われチエルノブイリに対する思いが強くなっていったのです。

私が松本に来て考えるようになった

ことは、チエルノブイリ事故で被曝した女性たちのことです。市民ギャラリーに展示している作品や「ナジエージダ」を見て、「この子どもたちは今どうしているんだろう?」「結婚して子どもがいてもいい年頃になってるはず」と。

被曝した女性たちは自分が子どもを産むことをどう捉えているんだろう?不安はないのだろうか?支えてくれる人はいるのだろうか?

そんなことを悶々と考えていました。そんな時、ベラルーシでは妊娠した女性が不安を抱えていること、妊婦健診で胎児の先天性異常が見つければ人工中絶する人が多いことを知りました。

一方で私はヨルダンでイラク人医師から聞いた話を頭の中で反芻していました。イラク南部のバスラでは劣化ウランが使われたことで癌の発生率が増加しており、若年化しています。15

歳で乳がんになる少女、生まれて数ヶ月なのに子宮癌のある子供。バスラの女性たちは、出産したとき「生まれた子供は男の子?女の子?」と聞くのではなく、異常があるかどうか、五体満足かどうか聞くそうです。イラクの女性たちにも、自分の妊娠・出産に不安を抱えている人が多く存在するので

松本に滞在してから私の中で、自分が看護師であること、チエルノブイリ、イラクが徐々にリンクし始めました。

JCFでは2000年から新生児支援をおこなっています。20年前被曝した少女たちが妊娠出産するようになり、放射能が二世三代三世にどう影響するのか、それともしないのか。今まで人類が体験したことのないことが起ころうとしています。また、劣化ウランの放射能は原発事故の物とは性質が異なるため、こちらも何が起こるか

からない状況です。

私が看護師だからできること、女性だからできることがあるはず。そんな思いが強くなり、JCFの新生児支援に関わりたくいと申し出ました。チエルノブイリとイラクの両方に関わる看護師となり、女性が安心して妊娠し、子供を生める環境を作るお手伝いがしたい。そんなことを考えています。

今の私ができること、しなければならぬことを見極めつつ、自分のペーシングを保ちながら、JCFの支援活動のお手伝いを長く続けていきたいと思っています。





## 甲状腺摘出後の若者達のフォローアップ 診断と共に実態調査にも

・7月8日(土) 16時30分～18時30分

・松本市あがたの森文化会館(1-3室)

理事会：…出席理事

委任状提出

通常総会：委任状提出

7名

オブザーバー参加 7名

(正社員10名)

今年度の理事会および法人格取得後初めての通常総会は、委任状によって成立する会になってしまった。しかし、4月イベントを支えた若いサポーターが参加してもらったことは、今後の活動をさらに広げるきっかけになるのではないかと期待している。

◎2005年度の活動報告・決算報告  
チエルノブイリ医療協力では、3

回の訪問団を派遣したり、充実したスタディツアーが行われた事が報告された。

決算報告は、任意団体としての9月29日迄の決算と法人としての決算書が報告された。最終年に当たる「チエルノブイリ(10)ドリームズ10」が多くの支援を受け、収入は年度予算目標に達した。

◎2006年度活動計画・予算案  
(1)チエルノブイリ被災地への白血病と新生児プロジェクトはTVカンファレンスと医薬品の供与、訪問団の派遣事業を継続して行う。

チエルノブイリ汚染地のベラルーシ

は、大統領が独裁的で、支援機器を搬入したり、現地購入の手続きが非常に面倒になっている。焦らずにこれまでの関係を維持して行く方向で進める。現在、不通になっているミンスクの小児血液がんセンターとの衛星通信を復活する。

(2)事故後20年経って、新たに注目される甲状腺がんの問題に対して取り組む。ベラルーシ、ゴメリ州チエチエルス地区の甲状腺摘出後の若者達のフォローアップを診断と共に実態調査していく。

ホルモン剤の内服とコントロール、生活状態を地区病院や保健局と協力しながらフォローアップする体制作りをする。診断のために小型超音波診断装置をチエチエルス地区病院に贈る。

(3)チエルノブイリ交流事業  
8月に2グループのスタディツアーを実施する。

(4)イラク白血病支援

イラク国内は、治安が悪化し、医薬品供給を行うキマディアが機能しなくなっている。2006年末には、首都バグダッドで約6割の供給率、南部のバスラでは必要量の5%のみで、がんは生存率が低いからと産科・新生児の方に予算が回っている。白血病をはじめ

めとした小児がん治療病院では、JIMNETからの医薬品支援なくしては、やっていけない。JCFは医薬品支援を最優先しながら、医師研修などを行っていく。

(事務局・神谷)



### 2006年度 特定非営利活動法人 日本チェルノブイリ連帯基金決算報告

2005.10～2006.3

科目	今年度決算額
収入の部	
会費収入	1,055,000
寄付金収入	10,360,265
助成金収入	23,799,681
雑収入	215,265
収入の部合計	35,430,211
支出の部	
チェルノブイリ支援	4,352,891
イラク支援	19,868,991
国内広報事業	777,394
人件費	3,596,600
事務所費など	1,005,486
印刷コピーパソコン保守	145,399
事務消耗品	98,020
通信発送費	297,926
国内旅費交通費	434,826
雑費	79,440
支出の部合計	30,656,973
任意団体JCFからの繰越	2,905,524
当期収支差額	4,773,238
次期繰越金	7,678,762

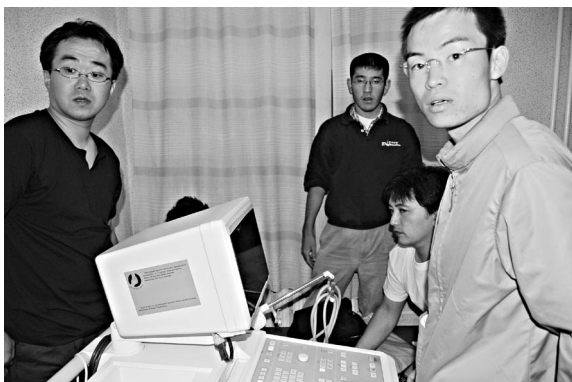
## 彼の功績を称えて

—りんごの木と黒パン—

小池 保寛（臨床工学技士）

引退していることを考えると、彼は『良く頑張った!!』と自分を誉めたくなるだろう。しかし、彼はいまだ変疲れている…。

私が初めて彼（GERT-X400）に会ったのは、2000年JCF第54次訪問団でチエチエルスク地区病院を訪問した時だ。訪問と1行で書いてしまったが、この地まで来るのが一苦労、否、三苦労の道のりなのだ。日本から約8000キロの距離を飛行機、列車で2日間の行程をやって来たのだ。この行程のエピソードは、『ブランドゼロ』ではおなじみであろう。以前、ある大学教授は、『ロシアのトイレの話で一冊本が書けるよ』と、おっしゃっていたが、私もその重い名言の意味をいやと言うほど体験した。少し余談になるが初めてロシアに渡航し、帰国したときの日本のトイレの美しさ、華麗さ、清潔さに大変感動したことを鮮明に記憶している。トイレに



彼（GERT-X400）は、老いぼれの超音波エコーである。日本人で何人知っているだろう、ベラルーシ共和国、ゴメリ州チエチエルスク地区病院が彼の家である。彼がこの地にきたのは、今から15年前、ある日本人のボランティア団体、JCFと一緒に来たらしい。彼の到着を病院スタッフと患者さんが大変喜んで、その笑顔をみていると彼も嬉しくなって懸命に働いた。この病院じゃ一番の働き者で、一ヶ月に甲状腺検査を600人診ている。しかし、最近、彼も年には勝てないらしく、画面が診づらいとガリーナ副院長に言われてしまった。彼の同期は皆

あれほどの感動を覚えたのは初めてであった。一度、トイレの話になると止まらないほどの沢山の経験をさせていただいた。

話を戻そう。

初めて彼（GERT-X400）に会ったとき、正直まだこんな古い超音波エコーが使用されていたことに驚いた。そして、1ヶ月に甲状腺検査で600人、心臓120人、胃200人、腎臓150人、肝臓130人を彼一台で検査を行っていることを聞きさらに驚いた。小児甲状腺がんの検査は年に2〜3回と義務付けられているためか、甲状腺検査が多い。

チエルノブイリ原発事故で放出された放射能で、原発からわずか200km離れたベラルーシ共和国チエチエルスク地区が最も放射能汚染がひどかった地域になったことは、彼の仕事ぶりに裏づけされている。病院の中は、昼間なのに薄暗く少しひんやりしている。

この年の渡航は、全日程天候に恵まれて、ちょうどチエチエルスク地区病院を訪問したときも天候は良く少し汗ばむ日だった。にも関わらずひんやりしていたのだ。チエルノブイリ周辺のセシウム137汚染状況分布で、レベル15キユリー/km以上の濃い色で示されたこの地区の現状を、まさに肌で感じた瞬間だった。

院内を案内していただいた。病棟には防毒マスクの使い方など、日本ではまず考えられない危険への対応が徹底されていた。医療機器は、除細動器とか心電計など緊急時使用の機器は錆び付いていて、病院スタッフに聞くと、患者が来ても使えないらしい。これが現実だった。しっかり目に焼き付けなければならぬ現実だった。私はこの地に観光に来た訳ではないのだ。のちにこの地に4回訪問するきっかけになった彼との出会いだった。

帰国して次回までの渡航まで充分時

間があった。現地での調査を踏まえて、なが一番チエチエルスク地区病院で必要なか確認した。結果、一般消耗品と簡易血圧計と心電図モニターに絞り込んだ。滅菌手袋、輸液セットなどダンボールで数箱、心電図モニターに至ってはメーカーのご好意で新品の手配がつけられた。このときのメーカーの配慮には本当にありがたきまだに感謝している。ME（医療機器を専門に扱うスタッフ）部隊の廣浦氏、藤牧氏の日頃のご努力の賜物であろう。

第58次訪問団では真夏のベラルーシの大平原で遭難しかかったが、チエチエルスク地区病院に無事医療機器を送ることができた。このとき送った心電図モニターは現在も病院スタッフに大切に管理されて使用されている。

チエルノブイリ原発事故から20年を迎える2005年、第80次訪問団は、スタディツアーで未来有望な臨床工

学技士のたまごの学生と共に機器リストを作成することを目的に渡航した。2000年頃より、本格的にゴメリ州立病院を中心に医療機器支援を行ってきたが、5年経過して支援機器の使用状況は正確には掌握しなかった。チエチエルスク地区病院も調査対象施設になっていた。多くの学生に汚染地区最前線のこの病院の存在を知って欲しかった。病院に到着してガリーナ副院長に院内案内とJCFが寄付した医療機器の現状を説明していただいた。そして彼（GERT-X400）に、久しぶりに会えた。

『うわぁ、また使ってくれてんだ！』振り返ると、第80次訪問団で同行した長野大学社会福祉学部 鷹野和美教授が懐かしそうに彼を見つめていた。『この器械、俺が運んだんだ。』まさに、15年ぶりの再会だったらしい。彼（GERT-X400）を囲んで緊急ミーティングが始まった。経年

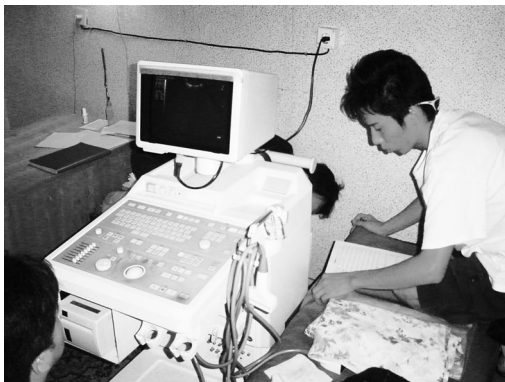
使用によるMモードの動作不良の報告をもらう。プローブの劣化が原因であるのは明白で、3.5メガヘルツ、7.5メガヘルツの2本が必要だった。状況はかなりの重症で、人間で例えると即入院である。更に病院スタッフからジェル、記録紙もベラルーシ国内を探すけれど該当品がなく、切実に支援を依頼される。

作業を終えて、コルサック院長室でミーティングをした。今回の作業報告のあとコルサック院長から近況報告をしていた。だく。

2005年、日本のODA（草の根無償資金協力）で8万ドルの支援が決まったらしい。調印式の写真も見せてもらう。8万ドルの支援内容は、血液検査機器、尿検査機器、内視鏡、OP用外科機材など11機器だった。コルサック院長、ガリーナ副院長両氏は、この日本のODAの支援は大変歓迎していたが、院内で最も使用頻度が高

いのは超音波エコーであることを一方的な支援では判ってもらえないことを言っていた。

支援品に頼らずに何とか自分たちで消耗品を探すが、それでもないから日本から送って欲しいと切実に説明してくれたガリーナ副院長が印象的であった。



外来に来た患者が心電図すら検査できない現状を理解しているのは、JCFの今いるこのメンバーだ。消耗品の支援の約束も本当に次回来てくれるのか確認をされたし、問題は山積みである。そして、チエルノブイリ原発事故から20周年記念としてルカシエンコ大統領事業でチエチエルスク地区病院の改装が決定したと言っていた。JCFと甲状腺がんのプロトコルの原点である施設なので是非、機器調査の結果を検討していただき、適切な本当の支援の継続を願っている。

チエチエルスク地区病院を担当した学生の多くが、医療機器の稼動状況及び不足消耗品の確認を實際現場で学べたことは、彼らの将来の可能性を考えると計り知れない貴重な体験をしたと考える。中古機器支援事業がもう必要ない施設はもちろん増えて当たり前だし、機器より現金が歓迎されるのはこの国でも一緒であろう。

しかし、チエチエルスク地区病院にはまだまだ新古品が必要なのだ。しかも、早急に。なぜなら、JCFの原点であるこの施設が支援病院の中で最も機器が不足しているからである。

帰国して数日後に、同行した学生からメールが届いた。どうやら彼は、チエチエルスク地区病院のコルサック院長との記念写真を院長宛にメールで送信したらしい。その返信がきて大変喜んでた。今まで、こうしたちよつとした交流の持続もなかったが、学生は何でも新鮮にすべて受け止めている。帰国して、しっかりと調査し報告することで相手に与える安心感と信用を得ることを私たちは忘れていたのかもしれない。私自身が一番、学生の姿をみて原点に戻れたのであろう。

そして今年、桜咲く季節に彼（GERT-X400）の後任者が決定したと吉報が届いた。スタディツアーで同行した学生が作

成した医療機器管理リストをまとめ、レポートとしてJCF内外に提出をした成果が、最高の形で実になった。

チエチエルスク地区病院中庭に、一本のりんごの木がある。この汚染地に健気に力強く生きていく。レンガ作りの重い雰囲気のある病院と対照的に、患者や家族とともに同じ時間を過ごしている。初めてこの地に来たときもその木はあった。なぜか印象が強く、当時同行したテレビクルーのカメラマンが『この木撮っていいこう。番組じゃ使えないけど、個人的に撮っておきたいから』と言っていたのを思い出す。病院の通り向こうには、小さなスーパーがあつて焼きたての黒パンが名物である。時計が必要じゃないくらいゆつくり時間が流れるこの町で、毎朝焼きあがる黒パンが時計代わりだ。

こんなんびりした町が彼（GERT-X400）の故郷なのだ。15年



## モスクワ便り

ロシアとベラルーシが統一国家になると言われてから久しい。しかし、実際にそうなるだろうと信じている人は少ない。ジャーナリスト達は何度も、統一に向かう関係について、ロシアとベラルーシの住民に質問した。

とてもたくさんの人々が、共に一つの国で暮らすことを望んでいる。しかし、誰が大統領になるか、どういう経済になるか、商取引の価値基準はどうか、どういう貨幣—ロシアルーブルまたは新しい何か？という問題が起こっている。ベラルーシの大統領は、平等な二国間の内部同盟を提案している。しかしながら、二国間の領土と人口の違い、経済の発展レベルの違い、国際舞台の影響力の違いの中で、そのような平等は可能なのだろうか。ロシアでは、自然資源と金の貯蔵によって、ベラルーシを養うことを危惧し、ベラルーシでは、独立性を失い、単にロシアの部分になることを恐れている。

すべてが、複雑である。そこに更に、ロシアがベラルーシに供給しているガスの価格を2007年1月1日から見直すという問題が起こってきた。ロシアは、ベラルーシの燃料は、ヨーロッパのように市場価格が設定されなければならないと主張している。ベラルーシ政権は、1000立方メートル47ドルから130～150ドルというガス価格の計画的な高騰に強く反対している。そして、ロシアとの同盟によって、ベラルーシの法的な支出ができるかに頼っている。これに関して、ベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領は、ベラルーシにとってロシアとの友情の問題は、石油やガスを低い価格で受け取ろうとすることではないと演説した。

あるクレムリンの高官が述べたように『ベラルーシが国内価格でガスを受け取るという唯一の方法は—ロシアの構成員になるということである』。しかしながら、たくさんの社会学的アンケート資料によると、それは、ミンスクでの反対派や独立派のエキスパートが引用しているものだが、全体としてロシアへの編入の支持は、6年前はおおよそ50%だったのに対し、今日では5～6%以下である。

イリーナ・ニコラエワ (JCFモスクワ事務局)

の月日が経ち、彼の引退が近づいているのか、それとも彼が伝えたいことがあつて呼び寄せたのかわからないが、いろいろな意味を含んだ節目の年に皆が集まった。支援ってなんだろう、医療機器ってどのくらい必要なんだろう、これからも支援は必要なのか、チエチェルスク地区病院にはまだまだ支援が必要なんだよ…いろいろな課題が未だに残っている。

しかし、僕たちの支援は一步、一步確実に進んでいる。

彼の15年の功績を称えると共に、新たな一步を踏み出す僕たちに毎日、毎日検査をしてきた彼が言うだろう。

『派手な実績はいらぬ。小さくても毎日、毎年の継続が大切なんだ』と。



チエチェルスク地区病院に支援予定の小型高性能、超音波診断装置 ソノサイト社マイクロマックス

☆チエチェルスク地区病院に、新しい超音波診断装置を、贈りたい！  
みなさまの応援をお願いします！

### ナジェージダ<希望>2006振込口座

Aコース	チエチェルスク地区病院に 超音波診断装置を！
郵便振替口座番号	00570-6-34568
加入者名	ナジェージダ2006

水際からの光  
宮尾 彰

NO.24

Когда весной Днепр разливается, разные  
звёзды собираются на остров, поближе к  
людям. Они надеются, что люди их пере-  
везут на лодках в деревню.

春、ドニエブルの水が野原にあふれ出すと、いろんなものたちが木の茂みに集まって来ます。いつもより人間の近くに。みんな、人間が自分たちを小舟に乗せて村まで運んでくれるのを待っているんです。

チエルノブイリ原発事故から十年後、ベラルーシ共和国ブラーギン州に住む少女イリーナ・チエルノーバイ（当時小学校四年生）が記した作文の一節です。まるでたぬきやさるたちが登場する日本の昔話さながらの光景は、とても今から十年前のものとは思えません。

その後、この少女はどうしているでしょうか。もう、獣たちが水際で人間を待つこともないのでしょうか。

\*

水俣病の「公式確認」から五〇年をむかえた今年、マスコミではいくつかの特集が組まれています。つい先日、NHKが『水俣 それぞれの祈り』胎児性患者たちの五〇年』を放映しました。

ふたりの主人公、金子雄二さんと坂本しのぶさんの、一貫して自己の尊厳を問いつける姿勢に胸を打たれました。番組では、おふたりの歩まれたそれぞれの人生が、その生活環境や立場の違いも含めて辿られました。障害が年々重度化する患者たちの現実に触れた栗原彬氏の発言を忘れることはできません。

「私たちは公認から五〇年、と簡単に言いますが、患者さんにとっては、毎日が水俣病なんです」。

番組の終わり近く、行政が主体となって催された公認五〇年記念式典の様子が映されました。カメラは、会場後方で式典を見守る坂本さんの背中越しに、あいさつに立った潮谷義子熊本県知事をとらえます。

『本日、私は許されてここに立っておりますが…』。

おそらく、知事なりに周到な準備と配慮の上で選んだ表現だったでしょう。しかし、坂本さんは即座に席を立ち、無言で会場を去りました。

水俣病を過去の歴史として収めたい社会と、「生きているかぎり終わらない」苦しみを生きる患者。そこにあるのは、全く次元の異なる二つの世界観です。

これまで、チッソの加害責任と呼ばれてきたものは、実は損害賠償責任という、金に価値変換された現象的な意味しかなかった。むしろ、本質的な責任は「生命世界の受難の記憶と祈り」にあると考える。

『挑水』第二号 緒方正人

これは「終り」ではなく「始まり」なのでしょう。この世でもっとも嘆きの深い水際から、愚かな私たちに透明な光が射して来るようです。



写真提供 本橋成一



写真提供 本橋成一

ジーマの

# ロシア話

◆学者はやっと中国の過密人口問題の解決を見出した。つまり、同性愛結婚を認めることです。

◆掃除人は銀行の総裁に頼む  
倉庫の鍵を貸して下さい。だって、そこの掃除をしに行く度に、ドアをピンで開けるに20分もかかるからです。

◆ある娘は、性格を硬くする薬を処方してもらうために医者診察を受ける。  
医者は驚いて禿げた頭を擦る。

「何かお気になることはありませんか。」  
「私は性格がやわらか過ぎます。イイエと言うための決断力が欠けています」  
「少々お待ちください。まずはドアを鍵でロックします」



◆駅のプラットフォームには、息を切らした人が駆け込み、去りつつある列車をぼう然と見る。駅の係りに話す。  
「あれは終電でしたか？」  
「終電の1つ前でした」  
「よかった！ つまり私はまだ終電に間に合った訳だ」  
「違います。というのは、終電の1つ前の電車が、かなり遅れた…終電より遅く着いた…」

◆鉛と鞭だけでは、ロシア人の指導はできません。ウォッカも必要です。

——ストレリツォフ・ドミートリさんよりのアネクドート——



## АНЕКДОТ



◆Ученые наконец нашли способ уменьшить население Китая: разрешить однополые браки.

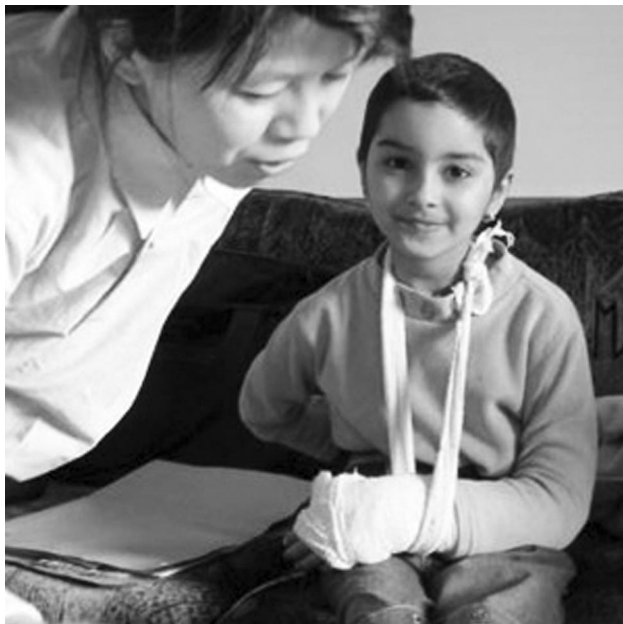
◆Уборщица просит у директора банка:  
- Вы не могли бы дать мне ключ от хранилища, а то мне каждый день приходится по 20 минут возиться со шпилькой чтобы открыть и прибраться там?

◆Девушка на приеме у врача просит ей выписать лекарство, чтобы характер тверже стал. Доктор удивленно чешет лысую голову:  
- Что вас беспокоит?  
- Мне твердости характера не хватает. Не могу сказать слово "нет".  
- Подождите секундочку, я дверь на ключ закрою.

◆На перрон вбегает запыхавшийся человек и растерянно смотрит вслед ушедшему поезду. Затем он обращается к дежурному?  
- Это был последний поезд? Нет, предпоследний?  
- Слава богу - значит, я ещё смогу уехать?  
- Едва ли. Дело в том, что предпоследний намного опоздал, так что последний ушёл раньше.

◆Русским человеком нельзя управлять с помощью только кнута и пряника, ещё нужна водка.

## イラク支援



足をがんで切断したアヤちゃん。アヤちゃんの将来の夢は体育の先生。お母さんは、片足だけで運動ができないけど、困難に挑戦する強い子だと言います。アヤちゃんもJIM-NETの補助金でアンマンで治療を受けています。JIM-NETは6月～7月初旬の間に、総額10,168,300円の薬品をイラクに届けることができました。

## JCFセミナー

イラクの子どもたちへ…  
とどけ続ける思い



トに添えられた6種類の絵のカードは、イラクの6人の子どもたちの絵に「I Love You!」と「I Love You too!」というメッセージを付けました。それは、2月14日と3月14日に限定のものではなく、イラクに暮らす子どもたちや白血病と闘う子どもたちと、医療支援のために募金してくれた皆さんの間でのメッセージでもありました。西村さんが、バグダッドで必死で薬を集め手術に臨んだムスタファ君が、なんと術後うつすら目を覚まし、西村さんにつぶやいた言葉だったのです!!

6月17日、松本市中央公民館(Mウィング)にて、西村陽子さん(JIM-NET/アラブの子どもとなかよくする会)を囲み、イラク報告と料理の「イラクを聞く、食べる、語る」会を開きました。

イラク戦争直後、西村さんや高遠菜穂子さんがお腹をすかせたストリートチルドレンと食べ物を通じた交流の話聞きました。JIM-NETの「限りなき義理の愛作戦」のチョコレ

西村さんのお話からは、JIM-NETがヨルダンからイラクに支援する薬品を誠実に運んでくれる運送屋さん、薬の買い付けに奔走する薬剤師、ヨルダンでお互いに支え合う患者の家族たち、イラク料理を教えてくださいるお母さんなど、実にたくさんの方たちが、エイドワーカーとして活動する彼女の周囲にすることが伝わってき

ました。そしてそういった方々との共感を大事にしながら支援活動をしているという西村さん。7月半ばにはヨルダンの現場に復帰します。

### ■イラク料理

ドルマ(作り方は65頁)、シヨラバ・アダス(レンズ豆のスープ)、ムハラビーヤ(ローズウォーターのデザート)、イラク風チャイを作り、食べながら歓談しました。料理はその国をよりに身近に感じ、文化を理解するペースになると、あらためて実感しました。



## 今後6か月間の支援の方向性を確認



3月31日金曜日。アンマンのトレドホテルで第4回JIMNETアンマン会議が開催されました。

会議には、イラク側はドクターが10人、そして日本側は、JIMNET現地スタッフのイブラヒム先生（院内学級）、JICA、JBIC（国際協力銀行）を含む7人が参加しました。

### 第1セッション

まず佐藤事務局長から、この半年間にJIMNETがどんな支援を行ってきたか、具体的な活動報告がありました。その報告の中でイラクのドクターたちとのやりとりがあり、和やか

な雰囲気の中で第一セッションがスタートしました。

その次に、国井から日本国内の活動、バレンタインデー・ホワイトデーのチョコレートの募金活動や、白血病の子どもたちが描いた絵の絵画展の報告を行いました。

その後は、Dr.ジャワード、Dr.リカ、Dr.サルマ、Dr.イブラヒム、Dr.ジャナンの順で、イラクのドクターたちからの報告がありました。みなさん、パワーポイントを駆使しながら、

- ① 白血病の発症率・死亡率
- ② JIMNET、その他からの具体的な支援

③ 病院内の様子（写真つき）

④ 患者さんの様子

⑤ 今後の希望

について、分かりやすく説明がありました。

しかし、発症率や死亡率は各病院に

よって算出方法が違うとのことで、治療が効果を現している病院もあれば、あまり変化のない病院もあり、そのことについて、ドクターたちの間で、議論がありました。

そして、今後6か月間の支援の方向性についての確認を行いました。

その中で一番時間を割いたのは、「看護師研修」についてでした。ドクターたちの認識は「看護師研修は必要」ということでしたが、まず一般的な研修から始めたほうがいいのか、専門性の高い研修を行ったほうがいいのか議論がありました。また、せっかく研修を行っても、他の病棟に行かれてしまう等の懸念もあるようでした。

バスラの産科小児科病院からは、「イブラヒム先生の院内学級」の報告がありました。バクダッドでも、院内学級やプレールームの充実をJIMNETが支援していきたいという話も出ま

した。やはり学校に通えない子どもたちや、思うように外出できない患者さんのために院内のアクティビティを充実させることはとても大切なことだと思います。

### 第2セッション

ランチタイムのあと、第2セッションがはじまりました。午後はDr.井下とDr.イブラヒムのやり取りがメインでした。

まずDr.イブラヒムから、2月に来日した時の「大阪日赤・臍帯血バンク」の報告が行われました。

その後、その臍帯血バンクの様子、臍帯血が輸血パックに詰められるまでの過程を見ながら、イラクのドクターたちにイメージしてもらいました。骨髄バンクと臍帯血バンクのメリット・デメリットを比較し、実際にイラクで臍帯血バンク設立が可能かどうか探ってみました。

しかし、現在のイラクでバンクを創るとなると、クリアしなければならぬ問題があるため、実現できるのはまだ先になるのではという印象でした。

会場の他のドクターたちの反応は様々で、若手のドクターの中にはやりとりに興味津々で耳を傾けている人もいれば、難しそうに聞いている方もいました。

また、ベテランのドクターにこちらから意見を求めても、現状の改善に手一杯という反応の方人もいました。ドクターたちの間で意思の統一ができるのも、もう少し先のことなのではないかと感じました。

二人とも今回の会議は大変意義のあるものだったと評価し、半年後の会議では、さらに進んだ内容を話し合えるようにしたいと言っていました。

国井真波（看護師）

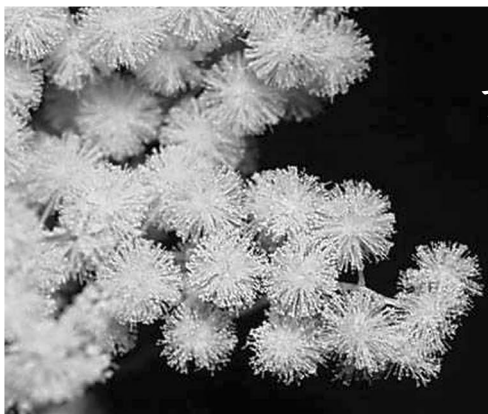


## 黄色いミモザと 赤いハヌーン

西村 陽子

(JIM-NET

アラブの子どもとなかよくする会)



黄色いミモザと赤いハヌーン…、ほかに白に、ピンクにと、アンマンが花に彩られる季節も、もう終わりです。麦畑は黄色くなり始めて、ヨルダンはもうじき夏が来ます。

先日、バグダッドからアンマンに出てきたマハムード君（アンマンのお父さんは、「イヤー、バグダッドはナール！ ナール！（燃えるように暑い）ヨルダンは涼しくていいよー！」と言っていました。そして、

「バグダッドはますます悪くなるばかりだ：」と。

私の知人のイラク人もあまりにも危険なので家族でアンマンに出てきたといえます。：「昨日の午後アンマンに着いたばかり」という奥さんはジャバル・フセイン（アンマン）のにぎやかな夜のショッピングモールを歩きながら、「私の家の周りはとても危険。

自分がアンマンでこんなふう歩いてるのが信じられない。なんでこんなに違うのかどうしても受け入れられない。バグダッドでは病院に行くこともできなければ、市場に野菜を買いに行くこともできない…。昨日は、首のない遺体がたくさんうちのすぐ近くで見つかったのよ。」

バクーバに住むこの家族は、数か月前、家のすぐ近所で真夜中におこった爆発の際、家で寝ていた男が皆、爆発の容疑をかけられ米軍に連行されたそうです。ちょうどこのときバグダッドの実家に里帰りしていたこの奥さんが、家に戻ると家中が荒らされ、男性の姿が見えなくなっていたそうです。幸い、彼女の夫はアンマンで仕事をしていたので無事でしたが、家族の男たちは無実の罪で2週間以上も拘束された後、一人ずつ釈放されたそうです。2003年の冬に会ったときと比べて、彼女の顔がやつれ、声も張りを失っ

て、別人のようになってしまったのがショックでした。3年前、彼女はもつとはつらつとしていました。生後7か月の子どもの世話とバグダッドからの長旅だけが彼女の印象を変えてしまった理由とはとても思えませんでした。

実は、バグダッドで薬の輸送に協力してくれるボランティアのアブ・サイードが住んでいるのはこの奥さんの実家と同じ地区なのです。薬をバグダッドの病院に送る前にまずアブ・サイードの安否を電話で確認します。（薬剤師のハイサム氏にアラビア語で話してもらいます。）

ハイサム：「元気ですか？外出するのは大丈夫ですか？薬を運べそうですか？もし、危険が伴うようだったら、いつでも中止してください。」

アブ・サイード：「大丈夫、大丈夫。最近、状況は落ち着いているから、薬送って。病院に届けるから。いやあ、今朝、

ドクターMのすぐ近所で爆発があつて何人も亡くなったけど、彼は無事だったよ。心配しなくて大丈夫。」

ヨウコ：「ええ、彼が無事なのは知っていますよ。だって、11時ごろメールで薬の要請リストを私に送って来ていましたから、間違いなく元気です。」

3月31日のアンマンでのJIM-NET会議の際にドクターたちにある質問をしました。

「これから気温が上がるので、要冷蔵の薬の輸送が難しくなるが、どうしたらよいか？」

すると

「保健省からの薬の供給は依然として安定していない。バグダッドのブラックマーケットの薬など、どこから運んできたか、どういう温度管理がしているか知れたものではない。私たちが一番信頼できるのはあなたたちがアンマンから送ってくる薬だ。だから、ぜひ

継続して送ってほしい」

という答えが即座に返ってきました。ところが、目立つアイスボックスでの輸送は危険だという話が輸送業者から来ました。そこで、発泡スチロールの箱をぎりぎりのサイズに小さく切つて、薬と保冷剤を新聞紙や断熱シートでくるみ、密閉して送ることにしました。発泡スチロールの箱はハイサム氏がアンマンの郊外のどこからか収集してきたそうです。保冷剤は日本からヨルダンに来る人に頼み、5個10個と手で運んでもらいましたが、ヨルダンもパーベキュウのシーズンに入り、大きなスーパーマーケットにアイスボックス



手作りアイスボックスに梱包

スとともに山積みになって売られていたのを見つけました。(もちろん冷やすのはビールではありません。)夏のうちに買占めてまわる予定です。そして、断熱シートは…。日本から持っていったものが終わってしまったて、どうしようかと思っていたところ、ヨルダンに旅行にいられたYご夫妻(西村の知人)がホームセンターを何軒も回って

『暑い日だつて安心シヨッピング・保冷袋シヨッピングバッグ』なるものをたくさん持ってきてくださいました。(シートよりも無駄なく詰めることができます。)

そうして、嚴重に梱包したアイスボックスがバグダッドに到着。

ハイサム：「薬はちゃんと冷えていますか？」

アブ・サイド：「ばっちり。アイスボックスよりよく冷えてる。保冷剤はまだ半分も凍ったままだよ。」

この手作りアイスボックス、22時間の砂漠の旅を無事任務完了しました。これで、「夏のかき氷作戦もいける！」というわけです。

このところ、アンマンからの発信が滞っていました。言い訳になりますが、けっこう、忙しかったのです。アンマンからは、薬だけでなく、超音波検査器をイラクへ送ったり、イラクのドクターのがんセンターでの研修を受け入れたり、セルセラレーターの技師の研修をしたり、JIMNETの支援は多岐にわたっています。

そして、最近、夜遅くにイラクからアンマンに白血病やがんの治療に来ている子どもの家族から相談の電話がかかってくるようになりました。イラク戦争の後から今まで、いろいろな基金から治療費の支援をうけていた患者たちが次々に支援を打ち切られるようになったのです。資金の不足が理由で、

ガンの治療が完了する前に、途中で放り出されてしまったのです。さらに、イラクからは400人近い患者がアンマンのキング・フセインがんセンターに救いを求めてやってきているのです。ほとんどの人が財産を売り払って、治療を受けに来るのですが、あまりにも高額な医療費、アンマンの高い物価のために途中で治療を断念するケースも後をたたないそうです。

そうしたイラク人患者のおかれた状況を少しでも改善しようと、ヨルダンのプリンセス・ディナ(左上写真・左から2番目)が総裁をつとめるキング・フセインがんファンデーションとの会談にこぎつけました。イラクからの患者が多く滞在するマンスリー・アパートのオーナー(イギリス出身の女性・左端)とイラクの小児患者家族代表でアブ・アハマド(右端)とJIMNETから西村が参加しました。プリンセス・ディナは、「ちようど2週間前



にイラク人をサポートするためのファンデーションを立ち上げたばかり。戦争の直後から日本のNGOがイラク人やイラクの病院をサポートしていると知って驚いた。ぜひ、協力して状況を改善していきましょう」というお話をされました。会談後、

「テーブルが大きすぎて、おいしそうなかクッキーに手が届かなかった」と悔しがるアパートのオーナーに

「ヨーコなんか、シャイ一口も飲んでなかったぞ。緊張してた？」とアブ・アハマド。

「だって、プリンセスはずっと私の目をじいっと見て話すんだもの、こっちから視線をはずすわけにいかないでしょ。一言も聞き漏らさないようにしていたんです。」

(大変流暢な英語でした。)

そのあと、自ら病院を歩き回って、新しく届いた寄付のおもちゃや機器などを一つ一つ説明してくださいました。

「あのねえ…」などと、私の肩に手を置いてとてもフレンドリーにお話をする、そして、颯爽と歩く後姿がとてもカッコいいプリンセスでした。

06年5月14日



あやとりに挑戦する、サマアちゃん

### イラクの子どもは 日本文化に興味津々

ヨルダンに滞在しているイラク人の家庭で食事をこちそうになると、「日本人はどうやって食べるの?」「こんなふうに食べるんですよ?」(はしのこと)というのが必ず話題になります。そんなときに備え、100円シヨップで買い込んだ割り箸を常備し、実演

教授そしてプレゼントしています。

アンマンのがんセンターに治療に通うサマアは、バグダッドで家族や親戚に、アンマンで出会った日本人や日本のことをいつも話しているといいです。今回は一人でJIMNETのオフィスにも遊びに来ました。彼女がやってみたかったのは、「はしを使って、ジャパニーズ・マカロナ（そうめん）を食べること」でした。残念ながら時間がないので実現しませんでした。あやとりに興味を示し、「山」を作りました。口でくわえて引っ張るのは彼女のアイデアです。今回はそうめんをこちそうしましよー

がつきやぶって出てくるやつ。  
ヨウコ：それはふすまと言って、壁ではなくて、スライドする戸なんですよ。イラク人：美しい絵がかいてあってアレいなあ。  
そして、いつも返答に困るのが「日本の道路には信号がないのではありませんか？」という質問です。テレビでそう言っていたとのこと…。イラク人から必ずといっていいほど、聞かれる質問です。私は日本でそういう道路に心当たりがなく、いつも「そんなことはないですよ。たくさんありますよ。」と返答に困ってしまうのです。どこの道路のことか、何のことを言っているのか心当たりのある方、教えてください。

こんなやりとりも…  
イラク人：日本の家の壁は紙できていて、絵がかいてあるんでしょ？  
ヨウコ：紙でできた戸のことですか？  
イラク人：壁ですよ。映画でサムライ



## 薬品緊急支援続行！

三月のアンマン会議の報告では、イラク保健省（MOH）からの薬の供給が20%から40%に増えたとのことだった。ただ、以前は必要量の80%を

できるだけ事前に送るなどしていきたい。

MOHとNGOでカバーできていたのが、NGOの支援が減ったため、必要量の36%は不足した状態である。パスラはさらに厳しく政府からの薬は5%程度。その中で4、5、6月とジムネットは頑張ってきた。運搬途中薬品がなくなることを現地ドクター達は心配していた。したがって、JIMNETは今まで病院へ直接薬を届けている。

医薬品の送付については、治安の問題がある。現在のイラクの治安状況によつては、政治的なイベントのたびに

「砂漠のゴール作戦」を展開した。バグダッドでも、テロが相次ぎ、ドクターたちは病院に出勤するにも危険。こんな中で、子どもたちはどうしているのだろうか。  
依頼を受け、送った医薬品は、すべて無事4病院に届いた。

国境封鎖の可能性もあり、その場合は

「砂漠のゴール作戦」  
支援総額 98208.39ドル

### 「砂漠のゴール作戦」による薬品支援

期間	支援薬品	金額 (米ドル)
5/27 ~ 6/1	fortum、Asparaginaze、Vinbrastine、forinic Acid、DTC、他	36147.27
6/11	cytosar、Glivec、etoposide、methotrexate	5636.85
6/17	ASPARAGINASE、CYTSAR、VINCRISTINE、SADBICUL、SYRING、他	2904.63
6/23 ~ 6/28	Dunorubacin、vinblastine、Actinomycin-D、carboplatin 450、forinic、Asparaginase、他	43519.64
合計		88208.39



# 振替用紙のメッセージから



◎大雪の年始めからレイテ島での地滑りなど大変な時を過ごしていますが、チエルノブイリの方はどうだったのでしょうかと思っています。シベリアの方は今年、大寒波であったそうで心配しています。今回のまたあちらこちらへの献金なので、気持ちばかりで恥ずかしいですが、ご笑納下さいませ。

(東京都)

◎少ない金額ですがお役に立てればと思います。続けていくことに意味があるんですね。私も続けていきたいです。

(兵庫県)

◎イラクが内戦状態になっています。一刻も早くイラクに平和を、子供達に未来を!!

(東京都)

◎春4月です。20年ですネ、事故の事は忘れること出来ません。日記にも大きく赤い文字が。これからも長く、ずっと見守り、かかわっていきます。

(京都府)

◎大人の私たちの理不尽によって子ども達の未来が消されようとしています。少しですがお役に立てて下さい。

(東京都)

◎婦人の友で活動を知りお送りさせていただきました。どうぞおからだ大切に活動されますように。

(兵庫県)

◎人間の尊厳を、人間の尊厳を!

(茨城県)

◎子どもや孫に核のない地球をと思います。今日本がまた戦争出来る国になるのではと心配です。

(長野県)

◎昨春秋に行われた静岡国際オペラコンクールでベラルーシの青年が見事2位になりました。嬉しい事です。

(東京都)

◎グランドゼロありがとう御座居ます。子供達の美しい笑顔で私も頑張らなくてはと思います。皆さまも頑張ってください。

(栃木県)

◎雪も消え新しい緑が萌え出てくる頃でしょうか。さわやかな気持ちが一本

の鉛筆クレヨンになりますように。

(東京都)

◎鎌田先生の命・環境・平和を…。多くの方々ありがとうございます。「感動」

(東京都)

◎今年の桜は殊の外美しく見事でした。全世界にこのやわらかな色合いの万葉の花をつけた桜が植えられ和みの心が行き渡ったらどんなによいかと願っています。グランドゼロ67号ありがとうございます。

(千葉県)

◎少額ですが、子ども達の笑顔が増えますように。

(兵庫県)

◎鎌田先生の対外医療支援の御仕事にお役に立てば幸いです。家内の喜寿記念にお送金します。

(東京都)

◎パンやの監督をして15年、お会いすることのない人たちへの応援ができて嬉しいです。

(石川県)

◎JCF15周年おめでとうございませす。あらためてよくこれだけのこと

家族のできるほんの少しのお手伝いです。

◎4月8日の集会、とても心打つものでした。一つ一つのメッセージをしっかりと胸におさめ帰ってきました。

(山梨県)

◎笑顔は薬にもなるそうです。子供達の笑顔が続きますように!(神奈川県)

(長野県)

◎気持ちを少し息子と二人分送金します。昨夜NHKレビでチエルノブイリの特集を見ました、胸がまりました。

(千葉県)

◎子供達の支援と世界平和を祈念

(千葉県)

◎『人間は暖かな連鎖も起こすことができることを目にモノみせたいと思っています』の鎌田先生の言葉に勇気づけられました、皆さまどうぞお身体お大事に、涙がとまりません!(東京都)

(東京都)

◎CDを聞き涙が出ました。ありがとうございます。本当に少しばかり、気持ちばかりですが寄付させていた

きます。皆さまお元気です!(千葉県)

◎ベラルーシの子どもたちへ医療カンパです。4月23日135名参加の下、20年の集いを持ちました。よろしく。

(京都府)

◎4月22、23日に市民集会『チエルノブイリ原発事故から20年』を開き皆さんから会場でカンパを頂きました。

(長野県)

◎チエルノブイリ20周年京都の集に参加してこのチラシを頂きました。よろしく御願います。

(京都府)

◎報道も増え今まで明らかにされていなかったことがようやく公表され始めました。人の命を奪うだけでなく環境(健康)を破壊する戦争はすぐやめて欲しい。

(京都府)

◎少額ですが受け取って下さい。皆様で力を合わせがんばって下さい、素敵な音楽をありがとうございます!

(埼玉県)

◎イラクの治安が全く良くなりませ

## ～ J C F 募金のお願い～

### ナジェージダ<希望>2006振込口座

Aコース	チェチェルスク地区病院に 超音波診断装置を！
Bコース	白血病治療支援・イラク
郵便振替口座番号	00570-6-34568
加入者名	ナジェージダ2006

応援して下さった方には、現地の病院の子どもたちが描いた絵のカードが届きます。

### J C F 会費振込口座

賛助会費	5,000 円
特別賛助会費	30,000 円
事務局ガンバレ会費	10,000 円
郵便振替口座番号	00560-5-43020
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

\*会費・寄付の入金時には入金確認の礼状はがきを差し上げます。  
はがき不要の方は振り込み用紙の通信欄でご連絡下さい。また領収書の必要な方もその旨お書き下さい。

### J C F /イラク支援振込口座

血液成分分析機購入、医師招聘研修、薬品購入

郵便振替口座番号	00520-0-81078
加入者名	J C F /イラク支援

ん。皆様の努力をとっても尊敬して下さいます。これからも頑張ってください。(東京都)

◎50才を記念して気持ち寄付させて頂きます(今年50才になりました)。C D「ひまわり」を聞いているとなぜか涙が出てしかたありませんでした。広島島の地より送らせていただきます。(広島県)

◎C Dを聴くたびにチェルノブイリの方々を思っています。私も病いと向き合っていて過っています。「ひとしずく」ほどですが何かのお役の足しにして下さい。(東京都)

◎原爆被害者の家族として心が痛みます。心の連帯を強くします。(東京都)

◎チェルノブイリ事故から20年。テレビではその当時と今の映像を伝えてくれます。深い感嘆、胸がしめつけられます。(千葉県)

◎本橋さんの写真展も良かったです。(静岡県)

◎長期間のイベント、お疲れさまでし

た。今、これらがむしろ出発でしょう。見過ごしていたこと、見落としていないか、ていねいに見つめ直してゆきたいと思っています。(長野県)

◎一人でも多くの子ども達が健康に暮らせればと思っております。(静岡県)

◎わずかではありますが、子どもさん達に明るい未来があることをお祈り申し上げます。(静岡県)

◎ジャワ島でまた地震による大災害が起きました。痛ましい、つらいです。(千葉県)

◎栃木なのですが、大丈夫なのでしたら、何かお手伝いができることがあれば是非参加いたします。宜しくおねがいします。(栃木県)

◎素晴らしい活動です。ささやかなカンパですが応援します。(栃木県)

◎友人から坂田明さんのC Dをプレゼントされました。涙がこぼれました。このような活動があることを知り、少



しても協力できたらと思います。(茨城県)

◎毎日イラクで何人も人が亡くなっています。人間の心を皆が早く取り戻せる環境になることを祈っています。(東京都)

◎私の自費出版した本を買ってもらったので、寄付します。(茨城県)



フストレーチャ：出会い

ВСТРЕЧА

### 憩いの森のパサージュ・・・

昨年リニューアルしたJCFリーフレットのチエルノブイリと日本を重ね合わせた地図は、高校の世界史の先生、小川幸司さん監修『世界史のパサージュ』の地図を使わせていただきました。この地図は小川さんが世界史を学ぶ生徒に、チエルノブイリを自分たちの問題として考えられるようにと工夫した地図です。小川さんは2002年10月セントラナーナ・アレクシエービッチさんと講師神田香織さんを招いた「チエルノブイリの祈り」や、2004年12月の「チエブラーシカのクリスマス」で、松本深志高校演劇部顧問として、生徒といっしょにイベントを盛り上げて下さいました。また小川さんが講師を務めるNHK文化センターの講座「600万年世界史の旅」は、受講希望者がキャンセル待ちしている人気講座ですが、その講座でもチエルノブイリを取り上げ、JCFの一会員として、今年4月のメモリア

ルイベントへの参加を、呼びかけて下さいました。

6月の梅雨の晴れ間の爽やかな朝、小川さんからNHK講座前のお時間を頂いて、松本市城山公園「憩いの森」でお話をうかがいました。小川さんは昨年から長野県の南にある松川高等学校に転任されたので、この日は飯田を早朝出発（担任生徒の突発事件で前日夜中まで奔走されたそうなのに）恒例

「世界史のパサージュ」  
監修：小川幸司  
発行：東京法令出版  
定価：860円（税込）



の浅間温泉詣でも済ませて、すつきりさわやかな笑顔で登場されました。

まずは我が家でも大活躍の『世界史のパサージュ』（東京法令出版）の生い立ちからお聴きしました。『世界史のパサージュ』は世界史を年代別や国別の記載だけでなく、事件や人物、音楽や演劇についても豊富な写



「憩いの森」で沢山のお話しをして下さった小川先生

真や地図を使った丁寧な解説があり、新聞やテレビを見て解らない事象に出会った時の辞書としても、また読み物としても楽しめる一冊です。そして「家族」という概念は何時生まれたのか？ファッションが動かせた世界史とは？紅茶が動かせた世界史とは？そしてその時、砂糖を作るために何がなされたいたか？というような新鮮で興味深い切り口で、世界史を身近に考えさせてくれる本でもあります。

「高校の授業で使われる世界史の図説は、写真が少しの説明文とともに並べてあるだけで、いくら読んでも歴史を深く勉強できません。一方、受験用の世界史の参考書だと、暗記事項が羅列してあるだけのものが多いんですね。今回、出版社から、世界史の図説を作ってほしいという依頼を受けたとき、喜んで引き受けました。図説というのは全国の学校で一斉に使用されま

すから、発行部数が多い。写真や図を山ほど掲載しても、価格を千円以下におさえられます。一家で気軽に一冊購入してもらって、子どもから大人まで読める本になる可能性がある。執筆の条件として、信頼している友人たちとの共同執筆にして、最終的にぼくが監修するというスタイルにしました。結局、3年という歳月がかかりました。ひとつひとつの事件の「意義」を、さまざまな学説を検討してきちんと書くことに心がけましたし、歴史にかかわる映画・音楽など広く話題をとりあげました。地図であれば当時どこに国境線が引かれていたかなど細かなことにも厳密に気を配りました。例えば中国の都市は時代によって表記がみな違います。黄河の流路も、海岸線も時代によって大きく違います。そうした一つ一つの膨大な検証をしたのです。執筆終盤の一ヶ月近くは、当時住んでいた明科の家から深志高校までの通勤時間

の節約と、家事分担や妻への育児協力から逃れるため(!!)に、松本駅前のホテルに居住しました。学校が終わるとホテルに直行して作業しました。でもそういう時に限って生徒が喫煙で補導されて、家庭訪問したりしてね…。家庭訪問から帰ってきて、ホテルで夜中3時まで執筆して、翌朝7時半には出勤する…そんな生活でした。」

この本の最初に小川さんはこう書いています。

〔パサージュ〕とはフランス語で「横町」「アーケード街」といった意味の言葉である。人間のきたないものも美しいものもゴチャゴチャに存在するパリの雑踏の風景を想像すればよい。世界史を学ぶという営みも実は、そのようなパサージュの中から未来に生きるための希望のかけらを見つけようとする事なのではないだろうか。ナチスの迫害から逃れる途上で絶望のあまり自殺した哲学者W・ベンヤミンとい

う哲学者がいる。本書のタイトルは彼の遺稿「パサージュ論」にちなんでいる。本書全体が「パサージュ」の一つの陳列棚になることを願っている。

インターネットで『世界史のパサージュ』という言葉を検索すると、実にさまざまな高校生のホームページにヒットします「僕はロックグループU2が好きです。因みに『世界史のパサージュ』という本でも紹介されています」と書いているサイトがあったり、音楽好きな高校生が自分のホームページに、『世界史のパサージュ』イメージ曲を作成してアップしてくれたりしています。(布山もダウンしてみました。が、時の流れを連想させる軽快で美しい曲でした。)高校生の趣味や好きなものなど、彼らの大切な部分で、ぼくの参考書がつかがっているのは、すごくうれしいですよ。大学受験のためだけに消費される本じゃあ、あまりにつ

まらないのですから。『世界史のパサージュ』は、進学校にのみ使われる本ではありません。今、ぼくがつとめている高校の生徒諸君は、どちらかと言えば、中学時代、勉強が苦手であったという子が多い。けれどもぼくが、この本を使って授業をしていると、彼らはきちんとこの本を読めるようになっていく。まだ勉強していない先の時代の頁を読みふけてくれたりして、そんな生徒の姿を見ると、とてもうれしいですね。

どの頁を開いてもずしりとした読み応えと、いろんな好奇心に伝えてくれる本は、やはりたくさんの方の力と年月をかけた積み重ね、そして小川さんの歴史参考書への思いから生まれたものでした。

そこで、高校教師としてこのような本を出された小川さんご自身の「歴史」をお聞きしてみました。

大学を目指す頃、作家になりたいという夢や、大好きな映画関係の仕事につきたいという夢を持っていた小川さんは、大学での西洋史の講義に一番魅力を感じ、それを専門として勉強を始めます。

『僕が不合格になったら、日本国がつぶれるだろう』と思っていたら、予想通りに現役で東大に合格、順風満帆、大学の勉強を心から楽しんでいた小川青年、ところ20歳の時、彼をたち止まらせ、人生を変える「事件」が起こります。高校時代の同級生二人が、

重い遺書を小川さんに遺して、半年の間に相次いで自殺するのです。この世で一番心が通い合うと思っていた女友達が亡くなった二ヶ月後、小川さんはシユラフを背負って貧乏旅行に旅立ちます。新潟からハバロフスク、キエフからルーマニア、ブルガリア、ユーゴスラビア、オーストリア、ハンガリーへ、見知らぬ世界に行けば亡くなつて

しまった人に会えるかもしれないという幻想も、心のどこかにあつたといえます。1987年、丁度チエルノブイリ事故の翌年、そして次の年には社会主義国がばたばたと倒れる境目の年でした。国々の政治の違い・文化の違い。歴史の違いをつぶさに見て、歴史を一生懸命勉強しようと思つて決意した旅でもありました。疲労困憊して旅から帰つた小川さんは、その後、一年かかって自分の未来のことを考えるようになります。

『自分は生きていても仕方ない』と考えて自殺した二人に対して、(死んでしまつて彼らは居ないのだけれども)ぼくは生きる意味があるのだ、と言いつつ続けた。そのために自分のいのちをばくはとことん納得いくように使いたい。「東大西洋史卒」という学歴をもてば、周囲の就職先は、研究者、マスコミ、銀行勤務などが大多数。で

も、ぼくはそうした仕事を選ぶことにはためらいをもつてしまいました。もしいつか、彼女のように自分を裁いてしまふような高校生に出会ったとき、いのちはそこにあるだけで必ず『希望』と出会えるのだということを、語りかけられるような、そんな人間になれたらいい…：そのためには高校の教師がいいるかもしれない…：そう考えました。しかも高校で歴史を教えられる。歴史を研究するということは、過去の死んでしまった人間たちと対話をするような営みです。ぼくはずっと死んだ友人たちと対話をしていきたいし、多くの過去の人々と対話をしていきたい。これは、ぼくなり『いのちを守るたか』のようなものです。

教員になった時の小川さんの目標は「歴史に関する本をたくさん書く高校教員」だったといえます。小川さんは自分のいのちを納得いくよう

に使用し、毎日の生活を走り続けま  
す。専門の勉強を続け、参考書、世  
界史教科書を書き、初任の豊科高校  
でたまたま演劇の副顧問になったこ  
とがきっかけで、深志高校でも演劇部  
顧問にのめりこみます。ナチス・ドイ  
ツがユダヤ人を虐殺した収容所を舞台  
にした『ベルゲン・ベルゼンの空の下  
で』、1930年代後半の日中戦争下  
の南京で避難民救済に当たったアメリ  
カ人を主人公にした『南京の早春賦』



2004年1月松本深志高校演劇部公演の舞台作り

などのオリジナル脚本も手がけ、たく  
さんの素晴らしい舞台をつくり、また  
進路指導部担当として、生徒と向き合  
います。

深志高校演劇部ではシリアスな脚本  
だけでなくシェークスピアの『夏の夜  
の夢』に挑戦したこともあります。

シェークスピアの戯曲をそのまま  
やっても面白くないんですね。彼だっ  
て内輪受けのギャグをたくさん書いて  
いる。…そこで、この史上最も有名な  
喜劇が今までイギリスや日本のプロの  
舞台でどう演じられたかを徹底して調  
べました。そして、ぼくたちはシェー  
クスピアの時代に立ち戻って、大道具  
を極力使わない円形舞台でいくことに  
しました。体育館のフロアのどまんな  
かに舞台をつくって、客席をそのまま  
りに作るのです。また、内輪受けのギャ  
グは、深志高校の内輪ギャグにすべて  
置き換えました。でも、それだけじゃ

あない。ぼくたちの演劇には、いろん  
な生徒が照明などの助っ人に参加して  
いるし、練習の時から大勢の見物人が  
来る。彼らから、公演前に「こんなお  
かしな台詞があるんだよ」とネタが校  
内に漏れてしまいます。それではくや  
しい。そこで練習用台本と本番用台本  
の二種類を生徒に渡したんです。練習  
用のギャグは、すべてダミーのギャグ  
ですよ。…公演の当日は、午前中に、  
秘かに校外に脱出します。県民文化会  
館まで行って、そのリハ室で、演劇  
部だけの秘密の特訓です。ただ一回、

本番脚本での練習をしたのです。そ  
して、本番!…深志の生徒たちはびっ  
くりしてくれたなあ…。役者のセリフ  
が、昨日の練習とまったく違うのです  
から。その上、全面的に書き直したラ  
ストの台詞は、公演の直前に決まった  
のでした。何度も何度も練習して、そ  
の過程でセリフが決まっていく…。そ  
れがぼくの演劇です。舞台の人物が、

練習の中でいのちを持ち始めるんで  
す。そのいのちと対話しながら、台本  
が出来ていくのです。セリフがどんど  
ん変わっていきますから、部員たちか  
らは『勘弁してください』とブーイン  
グの嵐です。でも、ぼくも主役の一人  
として出演しているのです、『君達より  
老いばれのぼくの脳みそも覚えられ  
たのだから、君たちが覚えられないわ  
けがない。(でも書いたのは小川さん  
だ：)』

大入り満員の体育館は、室温が四十  
度近い熱気にあふれ、幕が開くと、古  
タイヤを積み、工所用足場と鉄パイプ  
が置かれた舞台上に、観客は「何だ、こ  
れは？」とびつくり。その上、噂のギャ  
グは全部置き換わっていたので、また  
また「あっ！」と驚いたそうです。

「あの時はスカッとしたなあ〜」  
思い出し、笑い顔一杯になるワン  
マン顧問です。

こうして高校時代の夢であった小説  
家や映画関連の仕事にこそ就かなかつ  
たのですが、高校教師になっても台本  
を書き、演劇に関わることができて、  
小川さんの夢はいつのまにか実現して  
います。

生徒にいつも言うんですね。「どん  
なかたちになるかわからないけど、夢  
を持ち続けていけばいつか実現してい  
くんだよ…、一生懸命生きていけば、  
夢はどこかで花開くんだよ…」って。

歴史でぼくが一番勉強してきたの  
はドイツの歴史です。ぼくにどって  
の最大のテーマは、ドイツがユダヤ人  
600万人を虐殺したナチス時代の歴  
史なのです。歴史を見る上で一番絶望  
的で重いテーマです。あまりに重すぎ  
て、真正面から研究している人が決し  
て多いわけではない。でも、そこから  
目をそらしたら本当の世界史にならな  
いのです。ナチスのユダヤ人迫害は、

調べれば調べるほど、人間がここま  
で残酷になれるのかと、絶望的に思え  
てきます。でも、その人間が、はたし  
てどういう希望をもてるのか、それを  
ぼくは探したいのです。『最悪の絶望』  
をみながら、『本当の希望』を組み立  
てたい…それがぼくのテーマです。ど  
んな絶望的なことをみても諦めない、  
何か道はあるはずだと考えたい。絶望  
はどこにでもあるけれど、だったら希  
望もどこにもあると思うのです。

子どもの凶悪犯罪やモラルの低下と



松本深志高校演劇部の稽古場



か、今の時代は人心の荒廃が『最悪』になってきたと、世の中では騒がれています。ぼくに言わせれば、冗談ではない。そんな人心の荒廃など、いろんな時代にいつもあったのです。ただ、そういう中で、ぼくらの生きている時代にしかない『絶望』が、二つある。

そのひとつは、科学技術と官僚機構の巨大な力を手にしたことで、ナチスのユダヤ人虐殺のように、ある人間集団をいっぺんに抹殺することが可能になってしまったことです。科学技術を駆使できる『知性』こそが、そうした虐殺を冷静に遂行するようになってしまった。

もうひとつは、『核』というものを人間が持ち、それをきちんとコントロールできないままに利用するようになってしまった。その結果、『チェルノブイリの祈り』でアレクシエービッチさんが書いているように、母から子への被爆の連鎖のなかで、人が人を愛

し新しいいのちをつくるのが『罪』になってしまふような事態が出現してしまった。新しいいのちを育むことが、必然的にそのいのちを傷つけることになるという、とんでもない状況です。これは、現代の私たちが直面している固有の『絶望』です。

こうした二重の『絶望』の時代を生きているのだということをもっと我々は考えなくてはなりません。

迫害をかくぐって生き残ったユダヤ人の作家たちのなかには、結局、何年も経ってから自殺してしまう人が少なくありません。しかし、精神分析学のヴィクトール・E・フランクルが『夜と霧』の中で書いているように、絶望しているのだけれど、それでも自分はどう生きるのかと問いかけて、前向きに生きようとする人がいるのです。大人だけではありません。アンネ・フランクのように、捕まる寸前まで、この苦境を乗り越えたら、次に自分はどう

生きるべきかと夢を抱き続けた少女もいるのです。ぼくは、そういう死者たちの後ろ姿から学びたい。

チェルノブイリのプジシチェ村の人もそうです。理性的に考えたら、放射能汚染の村に住み続けるのは、『愚か者』です。しかし、最後まで自分の生まれた大地を愛して、さらに自分の隣人たちを愛しているのは、いのちに対する責任を誠実に果たしている人間の後ろ姿ではないですか。これこそが、希望の根柢なのもかもしれません。『チェルノブイリの祈り』に書かれているように、産むことは罪なのかもしれないけれど、自分は弱い人間で、一人で生きられないから、それでも人を愛して子どもを産みたい。それでも生きていくんだ。そういう普通の人々のいのちの歩みに、ぼくは『希望』を感じます。それでもぼくたちは生きていくべきなんです。

また、こういった人間のことを、授

業の中でみなさんと一緒に考えていくと、いろんな人がぼくと同じように共感してくださる。こういうふうに考えているのは、僕だけじゃないんだって思えます。それも『希望』ですよ。

JCFのみなさんが今の活動をしているのは、被災地の力になりたいからだというのではなく、目の前の具体的な人々のいのちに感動して、逆に彼らから元気をもらっているのです。その恩返しをしたいからだ。そんなことをよく、おっしゃいますよね。JCFのみなさんも、普通の人々の『希望』に感動しているのですよね。JCFの活動のお手伝いをさせてもらえるようになってから、ぼくが学んだことはすごく大きい。自分の世界史の根本にかかわることです。

文字にすると、すごく重い話題なのに、小川さんの淡々と穏やかな話し方と、専門分野についてでも、いつもこ

自分も一緒に考え学ぶ仲間というスタンスが一貫していて、エラソウなところが全くないお人柄が木陰のお話を弾ませます。お話の途中にも、携帯に生徒の親から相談の電話が入ったりします。

時として後悔することもあるんですよ。もうそろそろ子どもたちと接するのも疲れてきたし、執筆活動だけで生きていきたいな、と。それでこの間、定年まであと何年あるかなと調べてみたら、まだまだ20年もあるじゃない！大学出て今までより、これから定年までのほうが長いことに気付いて愕然としたんですよ。それから2週間、不眠に悩まされました。

2週間の不眠の後に辿り着いた笑顔で、小川さんのお話しは続きます。

生徒と親に携帯の番号を教えてい

るので、何かあるとすぐに連絡が来ます、そういうのって大変だけど、苦ではないですね。でも人が相手だから一生懸命やってもうまくいかないこともある。子どもだって、試行錯誤、失敗を繰り返す中から人生を学んでいく。でも現代では、子どもの失敗について、親や県教委から何かと学校の監督責任が問われることが多くなっています。教師も管理に向かわざるを得なくなっている。進学成績にしても、中退率にしても、クラブ指導にしても、「数値目標」ということばかりが騒がれる。教育現場の居心地が悪くなっていますね。こんなことばかりやっているから、自分の専門分野の学問で子どもにせまるといふ教員が少なくなっています。ある分野においては強烈な個性と才能をもった教員。ぼくらの世代までが学恩を受けたような名物教師という存在が、随分いなくなりました

小川さんが深志に居た頃は、一番大きな教室に演劇の道具を置きっぱなしにしていました。その教室は、演劇部の稽古場としていつのまにか占有状態になり、小川さんの許可がないと授業にも使えなくなっていたそうです。補講などで他の教室では生徒が入りきれないからこの大教室を使わせてくれと、苦情を言われると、

僕の世界史の補講は80名くらいの受講生がいて、一番多かった。でも、この補講を普通の40名用の教室でやっていた。教室にびっしり机を並べると、70名は入ります。さらに廊下側の窓を取り払い、廊下にも机を並べれば、80人が受講できるんですね。夏に身動きできない教室で授業を受ける：この熱気がぼくは好きだったなあ。生徒はちゃんと80名がひしめきあって受講しましたよ。しかもこの規模の補講が、2クラスあったんです。160名が参加したのですから。それで、ぼく

り切っているそうです。

たくさんのお話にあつと言う間に時間が過ぎて、憩いの森ご自慢のカレーが運ばれてきました。

あつ、これは美味しい!!  
ぼくは『カタログハウス』の熱烈なファンで、あそこの食品を片っ端から頼むマニアなんですけどね。とくに『カタログ』のイトリキカレーを愛し



「チェブラーシカのクリスマス」で、息子さんとクリスマスカードを描く小川さん、鬼の顧問も息子さんの前では…

がこうやっているのだから、何で他の教員が大教室を使いたいなどと生意気なことが言えるんだ：ぼくは大教室を稽古場用に占拠し続けました。

むちゃくちゃな論理で確保していた演劇部大教室占有制は、小川さんの転任と同時に崩壊したそうです。

「今の生徒は無茶をする楽しさを知らないよね。自信の無い子ほど無茶ができない。今の松川高校でも無茶をする楽しさを生徒達に伝えたい」と小川さんは言います。

松川高校で新しく作った演劇部は、小川さんを入れて4人、今取り組んでいるのは南米チリのアリエル・ドーファンという作家が新国立劇場の公演のために書き下ろした『THE OTHER SIDE——線の向こう側』という不条理劇です。

：長い戦争状態にある某国が舞台。国境近くの小屋で、老夫婦が、戦死者の埋葬作業をしている。若い男の死体を見るたびに失踪した息子ではと探る妻。そして、待ち望んだ停戦の知らせが流れる。しかし、その直後、国境警備隊がのりこんできて、小屋を二つに分断し、新たな国境を作ると言い出す。

小川さんがこの作品を選んだ理由は、この芝居で最初に国境警備隊員が登場する時、道具の家の壁を電動鋸でガーンと切断して出てくる、それをやりたかったからだそうです。物語の内容よりまずこれに惹かれたとか。いきなり舞台装置をぶっ壊して、無茶をして登場する：確かにこの「出」は、演ってみたい!

そして国家と人間の関係の不条理は、まさにどこにでもある普遍性をもつテーマでもあります。今、生徒と

ています。ところが、これが妻と子どもには不評。：このカレー、あのイトリキカレーの味に似ていますよ!：以前、『カタログ』で、イタリア製アイスクリーム製造器が売り出されたんですよ。結構な値段でね。アイスクリームが大好きなぼくは、自前でアイスクリームが作れば一家の幸せではないかと、機械の構造を調べずに衝動買いをしました。届いてから判明したのは、材料を機械に入れただけではアイスクリームにはならないということ。今から考えれば当然なんです、機械そのものを冷凍庫に入れて冷やす必要があります。しかしこれを冷凍庫に入れると、普段食べているアイスクリームを保管しておくことができなくなるではありませんか!!：美味しいけど面倒くさいアイスクリームをとるか、手軽な市販のアイスクリームをとるか：究極の選択に迷った結果、その機械は3回使っただけでお蔵入りになりました。

3回食べた手作りアイスクリームは、カップ一杯千円以上の原価がかかっていましたね。：でもね、こうわくわくしながら待つて、こうまで高い買い物をして、はずれました、と言って妻と論争するのも、また楽しいんですよ。

何だか冷蔵庫の前の奥様との会話まで聞こえてくるようです。世界史や演劇と同じようにアイスクリームも熱く語る小川さん、まだまだ開けてみたい引き出しがいっぱいありそうです。でもNHK講座の時間が迫りました。

小川さんのお話を聴いていると学ぶ楽しさが静かに伝わってきます。そして明日が少し楽しみになります。

レザンホールで『線の向こう側』の上演ができますように、松本からエールを送っています。(布山)

## ニュースクリップ

### < 国内 >

#### ●再処理工場で放射能廃液漏れる

日本原燃は、ウラン試験を実施している使用済み核燃料再処理工場の低レベル廃棄物処理建屋で、放射能を含んだ廃液 68 リットルが漏れたことを明らかにした。(2月20日 毎日新聞)

#### ●福島第一原発3号機停止

東京電力福島第一原発3号機の原子炉再循環ポンプ周辺からの水漏れによるトラブルで、東電は3号機の原子炉を停止した。停止操作中に、原子炉の低出力運転時や停止中の中性子量を測定する装置が正常に動かなくなった。

(2月22日 共同通信)

#### ●島根原発2号機自動停止

中国電力は、定期検査中の島根原発2号機の臨界試験中、原子炉内の中性子数の異常な増加を示す信号が出て、原子炉が自動停止したと発表した。

(3月1日 毎日新聞)

#### ●被爆者の45%が甲状腺疾患

広島・長崎の原爆被爆者約4000人のうち、45%が甲状腺の疾患を発症し、被ばく線量が高いほど、被爆時に年齢が若いほど、発症する率が高いことが放射線影響研究所の大規模調査で分かった。

(3月1日 共同通信)

#### ●久美浜原発計画を中止

関西電力が旧久美浜町(現京都府京丹後市)に申し入れていた原発建設のための事前環境調査を同市が撤回要請していた問題で、関電の青木副社長は同市役所を訪れ、中山市長に「建設計画を中止する」と伝えた。

(3月8日 京都新聞)

#### ●女川原発3号機が運転再開

東北電力は、昨年8月の宮城地震で設計用の想定を上回る揺れの強さが確認され、停止したままだった女川原発3号機の原子炉を再起動した。

(3月15日 河北新報)

#### ●志賀原発2号機が稼働

試運転中だった北陸電力志賀原発2号機が、原子力安全・保安院による最終検査を終え、営業運転を開始した。国内の商業炉としては55基目。

(3月15日 共同通信)

#### ●福島原発、ひび割れ配管内の全周

福島第二原発3号機の再循環系配管でひび割れを見落としていた問題で東京電力は、ひび割れは配管内の全周にわたり、交換が必要な重大なものだったと発表した。(3月24日 毎日新聞)

#### ●原発で初の差し止め判決

北陸電力志賀原発2号機は耐震性に問題があるなどとして、住民らが北陸電力に運転差し止めを求めた訴訟の判決で、金沢地裁は運転差し止めの請求を認めた。原発の運転差し止めを認めた判決は初めて。(3月24日 共同通信)

#### ●志賀2号機で北陸電が控訴

北陸電力志賀原発2号機の運転差し止め請求を認めた金沢地裁の判決を不服として、北陸電力は名古屋高裁金沢支部に控訴した。

(3月27日 共同通信)

#### ●保安院、美浜3号の運転を容認

11人が死傷した2004年8月の関西電力美浜原発3号機の蒸気噴出事故で、経済産業省原子力安全・保安院は事故調査委員会を開き、保安院が実施していた特別な保安検査を終了することが了承された。事故調査委は解散し、運転再開が事実上容認された。(3月28日 共同通信)

#### ●再処理工場で試運転開始

日本原燃使用済み核燃料再処理工場で、使用済み核燃料を操業と同じ工程で処理する試運転(アクティブ試験)が始まった。プルトニウムを抽出する民間初の商業用再処理工場は実質上の運転を開始した。(3月31日 共同通信)

#### ●再処理工場、プルトニウム含む水漏れる

日本原燃は、試運転中の使用済み核燃料再処理工場内にある前処理建屋の小部屋内で、プルトニウムなどの放射性物質を含む水約40リットルが漏れたと発表した。試運転開始以来初めてのトラブル。(4月12日 共同通信)

#### ●今も国家予算5%が事故対策費

チェルノブイリ原発事故20年を前に、京都大原子炉実験所でウクライナ最高会議顧問のユーリー・シチェルバク氏らが講演した。働き手を失い援助を受けている世帯が1万7000世帯にのぼ

り、事故関連費として国家予算の5%を支出する現実を明らかにした。「事故は根こそぎ地域を破壊した」と訴えた。(4月14日 毎日新聞)

#### ●9人全員の原爆症認定

原爆症の認定申請を国が却下したのは不当として、被爆者が処分取り消しと1人300万円の国家賠償を求めた集団訴訟で、大阪地裁は原告9人全員について却下処分を取り消し、原爆症と認める原告勝訴の判決を言い渡した。賠償請求は棄却した。(5月12日 共同通信)

#### ●再処理工場で漏えい、稼働停止

日本原燃は、使用済み核燃料再処理工場内の配管から放射性物質を含む試薬約7リットルが漏れ出し、プルトニウムの精製工程を止めた。

(5月18日 毎日新聞)

#### ●ウラン残土れんが化で同意

鳥取県湯梨浜町のウラン残土処理について片山知事は、県有地でれんがに加工し撤去する日本原子力研究開発機構と文部科学省の計画に同意した。

(5月20日 毎日新聞)

#### ●原爆症認定判決で国が控訴

原爆症の認定申請を国が却下したのは不当として、被爆者9人が処分取り消しと国家賠償を求めた集団訴訟で、国は全員を原爆症と認めた大阪地裁判決を不服として大阪高裁に控訴した。

(5月22日 共同通信)

#### ●再処理工場で初の体内被ばく

日本原燃は、使用済み核燃料再処理工場の分析建屋で、試料分析の準備作業をしていた協力会社の男性作業員が誤ってプルトニウムを含む微量の放射性物質を吸い込み被ばくしていたと発表した。体内(内部)被ばくは初めて。

(5月25日 時事通信)

#### ●事故翌年にダウン症児突出

ペラルーシのミンスク先天性・遺伝性疾患研究所のゲンナジ・ラジュク元所長が広島大医学部で講演し、1986年4月のチェルノブイリ原発事故の高濃度汚染地域で、翌年に生まれた子どもに先天性疾患のダウン症児が突出して多いことを初めて明らかにした。汚染地区での先天性奇形の増加は事故後3年間続いたと報告し、「胎内に曝した人たちが出産する時期になっており、広島との継続的な共同研究が重要」と訴えた。

(5月26日 中国新聞)

#### ●原発制御棒に欠陥、すべて東芝製

原発の運転にブレーキをかける「制御棒」に多数のひび割れが全国で見つかった問題で、東京、中部両電力は制御棒に設計上の欠陥があり、予定よりも短期間の使用にしか耐えられないとの調査結果を経産省原子力安全・保安院に提出した。すべて東芝製で、使用期間の長いものから順次別タイプに交換するという。(5月26日 毎日新聞)

#### ●原発解体、再利用申請

日本原子力発電は、98年3月に廃炉となった東海発電所の解体で発生する一部の低レベル放射性廃棄物を、建材などに再利用するための申請を経産省原子力安全・保安院に行った。改正・原子炉等規制法に盛り込まれた「クリアランス制度」に基づくもので、申請は全国で初めて。

(6月2日 毎日新聞)

#### ●原発周辺で耐震地質調査

東京電力は、原発の耐震性を定めた耐震設計審査指針が近く改定されることを受け、福島第一、第二原発と、柏崎刈羽原発の周辺で追加の地質調査を行うと発表した。(6月2日 毎日新聞)

#### ●入市被爆者、白血病の発症3倍以上に

原爆投下後、家族を捜す目的などで2週間以内に爆心地付近に入った広島市の「入市被爆者」の中で、投下当日の8月6日に入市した男性の白血病発症率が、通常よりも3倍以上高かったことが分かった。鎌田七男・広島大名誉教授が、長崎市で開かれた「原子爆弾後障害研究会」で発表した。

(6月4日 共同通信)

#### ●浜岡原発5号機が自動停止

中部電力浜岡原発5号機で、タービン軸に異常な振動が発生し、これを感じた原子炉が自動停止した。昨年1月に営業運転を開始して以来、自動停止したトラブルは初めて。

(6月15日 共同通信)

#### ●原子力立国計画まとめる

総合資源エネルギー調査会原子力部会は、原子力発電を基幹電源として維持し、核燃料サイクル政策を推進するためには、国が民間を主導する国家戦略が必要とする報告書「原子力立国計画」をまとめた。(6月16日 共同通信)

## ニュースクリップ

### <海外>

#### ●イランのウラン濃縮再開を初確認

国際原子力機関 (IAEA) は、イランが中部ナタンツのウラン濃縮研究施設で、遠心分離機に六フッ化ウランを注入し、ウラン濃縮を約2年ぶりに再開したことを初めて確認した。

(2月14日 毎日新聞)

#### ●米、22回目の臨界前核実験

米エネルギー省は、核爆発を伴わない通算22回目の臨界前核実験を西部ネバダ州の地下核実験場で、英国と共同で実施したと発表した。米国による臨界前核実験は2004年5月以来約1年9カ月ぶり。英国との共同実験は02年2月以来2回目。

(2月24日 共同通信)

#### ●米印、核技術協力で合意

インド訪問中のプッシュミ大統領は、ニューデリーでシン首相と会談し、政治、経済、軍事などあらゆる面で両国間の戦略的関係を強化するとともに、焦点だったインドの原子力発電などに米国の核技術を提供する協力実施で合意した。

(3月2日 共同通信)

#### ●チェルノブイリ報告書の変更提案

チェルノブイリ原発事故の影響を総括してIAEAなど国際機関と関係3カ国が昨年9月にまとめた報告書について、被害が最も大きかったベラルーシ政府が将来のがん発生の可能性など「健康影響について結論を急ぎすぎている」と不満を表明、内容の変更をIAEAに提案したことが分かった。

(3月16日 共同通信)

#### ●ルカシェンコ大統領が3選

ベラルーシ大統領選は19日投票が行われ、同国選挙管理委員会は20日未明、暫定開票結果で現職のルカシェンコ氏が82.6%を得票し3選を果たしたと発表した。野党は19日夜、雪が舞うミンスク中心部の広場で約3時間抗議集会を開催。若者ら1万人近くが集まり「ベラルーシに自由を」などと訴えた。

(3月20日 共同通信)

#### ●ベラルーシ、国民の30%が甲状腺障害

チェルノブイリ原発事故で風下に当たり、放射能の70%が流入したとされるベラルーシでは、現在も南部を中心に国土の20%が放射能汚染地帯に指定され、国民の30%以上が何らかの甲状腺

障害を抱えていることが、ベラルーシ当局の調査報告で分かった。(3月24日 時事通信)

#### ●チェルノブイリ、死者9000人の可能性

世界保健機関 (WHO) はチェルノブイリ原発事故に起因するがんや白血病の死者数が、9000人に達する可能性があるとの報告書を公表した。ただ、死者数の予測には不確定要素が多く、継続的な調査の必要性を指摘している。

(4月15日 毎日新聞)

#### ●チェルノブイリ、子どもの免疫力低下

チェルノブイリ原発事故20年を前に、子どもたちが受けた健康被害を考える研究報告会がモスクワで開かれた。ロシア連邦小児放射線防護臨床研究センターのパーレワ所長は、放射能で汚染されたロシア南部の子どもたちの間で、内分泌系の障害が急激に増え、免疫機能の低下が広く見られることを明らかにした。ウクライナ放射線医療研究センターのステパノワ氏は、04年にウクライナで新たに甲状腺がんにかかった子どもは過去最高の374人で、増加傾向が依然続いていると報告した。(4月17日 毎日新聞)

#### ●チェルノブイリ、がん患者27万人に

国際環境保護団体のグリーンピースは、チェルノブイリ原発事故に起因するがんの患者は今後を含め27万人、うち死者は9万3000人に達するとの見通しを発表した。(4月19日 毎日新聞)

#### ●ベラルーシ、国土の23%が放射能汚染

ベラルーシのシドルスキー首相は、首都ミンスクで始まったチェルノブイリ原発事故20周年の国際会議で演説し、同事故で国土の23%が放射能汚染され、人口の20%が被ばくしたとの被害状況を報告した。ベラルーシでは森林の20%、農地の20%が被害に遭い、13万7000人が移住を余儀なくされた。(4月19日 時事通信)

#### ●チェルノブイリ、がん死者1万6000人

WHO下部組織の国際がん研究機関 (IARC) は、チェルノブイリ原発事故の被ばくによるがんでの死者数は、旧ソ連の現場周辺国と欧州全域の計40カ国で、発生から2065年までに約1万6000人に達する恐れがあるとの推計を発表した。(4月20日 共同通信)

#### ●放射能汚染地域を自然保護区に

ベラルーシ政府のチェルノブイリ原発事故被害対策委員会は、同国南部の放射能汚染立ち入り禁止区域を自然保護区に指定し、希少種の野生動物を繁殖させる構想を明らかにした。

(4月24日 時事通信)

#### ●経済制裁決めればIAEAとの協力停止

イランの核交渉責任者である最高安全保障委員会のラリジャーニ事務局長は、国連安全保障理事会が対イラン経済制裁を決定すれば「IAEAとの協力を全面的に停止する」と述べた。さらに「核拡散防止条約 (NPT) 脱退も検討している」と警告した。

(4月25日 毎日新聞)

#### ●チェルノブイリ、死者9000人に修正へ

IAEAやウクライナなどチェルノブイリ原発事故被災国政府でつくる「チェルノブイリ・フォーラム」が、これまで約4000人としていた同事故による最終的な死者数の推定を、WHOが公表した最新の報告書に従い「最大で9000人」と修正する見通しとなったことが分かった。

(4月25日 共同通信)

#### ●ウクライナ全土で黙とう

チェルノブイリ原発事故20周年の26日、ウクライナ各地で犠牲者追悼行事が始まり、多くの国民が事故のあった午前零時すぎ、黙とうをささげた。全土の教会では深夜の祈とうが行われた。事故直後に避難した元原発労働者やその家族多数が住むキエフ郊外のスラブトイチでは、遺族や住民がろうそくを持って行進した。

(4月26日 時事通信)

#### ●チェルノブイリ会議、最終報告先延ばし

チェルノブイリ原発事故20年を機にキエフで開かれていたIAEA、WHOとウクライナなど被災3カ国共催の国際会議は、事故の死者数をめぐる対立などから、予定していた最終報告をまとめることができないまま閉幕した。

(4月26日 共同通信)

#### ●ベラルーシ、反政府デモ4万人に

ベラルーシの野党勢力は26日、チェルノブイリ原発事故20年に合わせ首都ミンスクで反政府デモを開いた。ルカシェンコ大統領の独裁に対する抗議集会としては過去最高の約4万人が参加した。

(4月27日 毎日新聞)

#### ●デモ主導の野党指導者逮捕

ベラルーシの治安当局は、チェルノブイリ原発事故20年に合わせ首都ミンスクで大規模な反政府集会とデモを主導した野党指導者ミリンケビッチ氏を逮捕した。即日裁判が行われ、禁固刑に相当する自由はく奪15日間の刑が言い渡された。同氏は3月の大統領選で現職のルカシェンコ大統領に対抗した野党統一候補。

(4月27日 共同通信)

#### ●野党指導者の釈放を要求

ベラルーシの野党勢力はメーデーの1日、首都ミンスクで1500人規模の反政府集会を開き、「無許可集会」開催容疑で拘置されている野党有力指導者ミリンケビッチ氏らの釈放を求めた。

(5月1日 毎日新聞)

#### ●イラン、4.8%の濃縮ウランを製造

イラン原子力庁のアガザデ長官は、同国が濃度4.8%の濃縮ウランを製造したことを明らかにした。同時に、ウラン濃度を原発の燃料に必要な枠内にとどめるため、5%以上に濃縮することはないとの意向も示した。(5月3日 ロイター)

#### ●放射能汚染の鉄材、水道管に

チェルノブイリ原発事故の汚染地域から大量の鉄材がロシアへ販売され、水道管などに再利用されていることが、ロシア上院科学・文化・教育・保健委員会の報告書で分かった。

(5月17日 時事通信)

#### ●ロシアの核ミサイル、市民団体が廃棄へ

市民の力で核兵器廃絶を目指す米国のNGO「核兵器解体基金」は、ロシアの核ミサイル1基を10万ドルで買い取り廃棄することでロシア原子力庁と合意し、モスクワで覚書に調印した。

(5月23日 時事通信)

#### ●非同盟会議、イランを擁護

マレーシアで開かれていた非同盟諸国会議の閣僚会議は、核の平和利用支持を盛り込んだイラン核問題に関する特別文書などを採択して閉幕した。

(5月30日 共同通信)

#### ●ベラルーシの弾圧を非難

モスクワで開催された第59回世界新聞大会は、主催団体である世界新聞協会の年次総会を開き、ベラルーシの報道弾圧を非難する理事会決議が報告された。(6月7日 共同通信)

# こんにちは！

# Здравствуйте!

## カラー版 子どもたちの命 チェルノブイリからイラクへ

岩波ブックレット No.677  
著者：鎌田實 佐藤真紀  
発行：岩波書店  
定価：700円（税込み）



JCF理事長鎌田實と、JIM-NET事務局長佐藤真紀が、チェルノブイリ、イラク、パレスチナ…長年にわたる医療支援の体験から、各国の医療の現状、厳しい現実に直面しながらもそれを乗り越えていく子どもたちの可能性、そして何よりも、命の尊さと人間のやさしさを、熱く語ります。子どもたちの写真や子どもたちの描いた絵の豊かさが、頁をくする楽しさを作っています。



◎お申し込み方法  
Fax : 0263-46-6229 又は  
Email : jcf@jca.apc.org

- ・氏名
- ・郵便番号
- ・ご住所
- ・電話番号
- ・申込枚数

を記載してお送り下さい。  
2500円+送料110円  
(郵便振込用紙を同封します)

CDショップで入手できない場合は、JCF事務局までお申し込み下さい。

「ひまわりを聞いているとなぜか涙が出てしかたありませんでした。広島の地より寄付を送らせていただきます」  
「CDを聴くたびにチェルノブイリの方々を思っています。私も病いと向き合っていて過ごしています」  
坂田明さんのサククスが聴く人の心に沁みます。収益金はチェルノブイリとイラクの子ども達の医薬品に使われます。

CD「ひまわり」好評発売中！



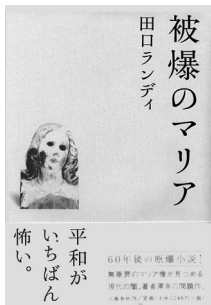
### 演奏

坂田明 (サククス・クラリネット)  
フェビアン・レザ・パネ (ピアノ)  
吉野弘志 (ベース)  
ヤヒロトモヒロ (パーカッション)

- 1 ひまわり
- 2 見上げてごらん夜の星を
- 3 ウェディング・マーチ
- 4 遠くへ行きたい
- 5 死んだ男の残したものは
- 6 早春賦
- 7 水母
- 8 G線上のアリア



**被爆のマリア**  
田口ランディ



被爆のマリア  
著者：田口ランディ  
発行：文藝春秋  
定価：1286 円＋税

**Book**  
広島・長崎原爆から60年後の原爆小説。2005年、『文學界』に連載された作品を大幅に書き直した、「永遠の火」「時の川」「イワガミ」「被爆のマリア」の四篇を収録。

**チェチェン紛争**  
大富 亮



ユーラシア・ブックレット No.94  
チェチェン紛争  
著者：大富 亮  
発行：東洋書店  
定価：600 円＋税

**Book**  
著者は、メールニュースレター「チェチェンニュース」を発行し、ウェブサイトを「チェチェン総合情報」(http://chechennews.org)を運営している。1994年、ロシアの軍事侵攻にはじまる「チェチェン戦争」。さらに複雑な泥沼へ進もうとしているかに見えるチェチェン情勢について、紛争に至る歴史的な経緯と、現在の人権状況についてまとめられている。

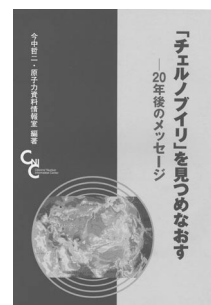
**バスラの図書館員**  
ジャネット・ウィンター



バスラの図書館員  
—イラクで本当にあった話—  
絵と文：ジャネット・ウィンター  
訳者：長田 弘  
発行：晶文社  
定価：1600 円＋税

**Book**  
2003年春、イラク戦争で戦火が迫った港町バスラで中央図書館員のエリアさんは、政府の役人が逃げ去っても図書館に残り、近所の人たちと協力して本を運び出しました。「図書館の本には、私たちの歴史が全部つまっている」。図書館は焼失しましたが、自宅と友人の家で三万冊の本が守られました。本書の収益の一部は図書館再建のために使われます。

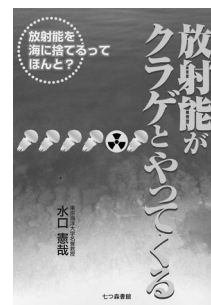
**「チェルノブイリ」を見つめなおす**  
今中哲二・原子力資料情報室



「チェルノブイリ」を見つめなおす—20年後のメッセージ  
編著：今中哲二・原子力資料情報室  
発行：原子力資料情報室  
本体価格：600 円

**Book**  
チェルノブイリ事故が明らかにしたこと、原発で事故が起きると周辺の地域社会が丸ごと消滅してしまうことでした。生活基盤の喪失は、失業や精神的ストレスなど被災者に二重三重の苦難をもたらしています。チェルノブイリに関わりながら最近私が感じていることは、科学的なアプローチで明らかにできることは、チェルノブイリという災厄全体のほんの一部にすぎないということです。(本文「はじめに」より)

**放射能がクラゲとやってくる**  
水口憲哉



放射能がクラゲとやってくる  
著者：水口憲哉  
発行：七つ森書館  
定価：800 円＋税

**Book**  
今年3月31日に、青森県六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場での試運転(9ヶ月試験)が始まりました。再処理工場が一日で捨てる放射性物質は、原発が一年間に捨てる放射性物質の量に相当する。大量の放射性廃液による海洋汚染がはじまる。

**STOP ROKKASHO**  
<http://stop-rokkasho.org/>



STOP ROKKASHO  
<http://stop-rokkasho.org/>

**Website**  
音楽家・坂本龍一さんが、青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場の危険性をインターネットと音楽、アートで世界に広めようと立ち上げたサイト。この問題に関心をもつアーティストたちのつくった音楽や絵、写真、映像などを無料でダウンロードできる。



第 68 号

発行日 2006 年 7 月 26 日

発行人 鎌田 實

発行所

日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原 浩  
イラスト 武内 裕子  
表紙デザイン 酒井 隆志  
スタッフ 神谷 さだ子  
布山 みな子  
協力 風樹 光  
オフィスエム  
熊谷 宏  
印刷 電算印刷

## ■編集後記

2006 年度 J C F 理事会は、残念なことに都合がつかない理事が多く、委任状の多い会になってしまった。でも記念イベント運営に参加した若者達がオブザーバー参加して、元気を分けてくれた。彼らの発言や行動をみていると、身体の贅肉だけでなく、年とともに苔むすしがらみといった心の贅肉の無い、軽やかさ、爽やかさを感じる。こういう若い仲間が加わってくれ、この若さで、新しい「連帯」に向かって第一歩を踏み出しているような気がする。(布山)

## ■事務局日誌

### < 3 月 >

- 13 日 20 周年イベント打ち合わせ
- 14 日 信州大学とエコセンターとの衛星通信
- 17 日 20 周年イベント打ち合わせ
- 24 日 「戦後 60 年を問う会・まつもと」集会 (松本市中央公民館)
- 28 日 グランドゼロ 67 号発送作業
- 31 日 JIM-NET アンマン会議

### < 4 月 >

- 7 日 20 周年イベント前夜祭 (松本市美術館講座室)
- 8 日 20 年目の対話「チェルノブイリからの伝言」  
(まつもと市民芸術館)  
本橋成一写真・映像展「ナジェージダく希望」  
(松本市美術館) (~ 5/7)
- 17 日 展示準備 (松本市美術館・市民ギャラリー)
- 18 日 「J C F 15 年のあゆみ」展  
(松本市美術館・市民ギャラリー) (~ 4/30)
- 22 日 子どもたちと絵の交換「ペラルーシへ絵を送ろう」  
(松本市美術館講座室)
- 23 日 「チェルノブイリからの伝言」(東京・有楽町朝日ホール)
- 30 日 「未来への誓い」(まつもと市民芸術館小ホール)

### < 5 月 >

- 14 日 J C F 活動報告講演会 (諏訪市)
- 16 日 NPO 会計決算セミナー (松本市)
- 30 日 J C F 活動報告講演会 (上松中学校)

### < 6 月 >

- 9 日 NPO 学習会 (松本市中央公民館)
- 17 日 イラクのこどもたちへ・とどけつづける思い (松本市中央公民館)
- 22 日 「チェルノブイリはまだ終わらない」講演会 (東京ウィメンズプラザ)

### < 7 月 >

- 1 日 J C F 活動報告会 (清里聖アンデレ教会)
- 6 日 部落解放同盟全国集会分科会 (長野市)  
JIM-NET 会議 (東京・カタログハウス)
- 8 日 J C F 理事会・総会 (松本市あがたの森文化会館)
- 16 日 JIM-NET 医療者ミーティング (東京)
- 17 日 J C F 活動報告会 (長野市ボランティアセンター)

## ドルマ

小麦の栽培はメソポタミア(イラク)から始まりました。パンもうどんもルーツをたどればメソポタミア!!

日本にはあまりなじみのないイラク料理ですが、実は日本人の口にもよく合います。そんな遠くて近いイラク家庭料理「ドルマ」を、アハマッド・ザーキーのお母さんのレシピでご紹介します。

### < 材料 >

- A. ジャがいも 4 個、茄子 4 個、ピーマン 4 個、トマト 4 個、タマネギ 1 個、小松菜葉 15 枚、葡萄の葉 8 枚
- B. 米 3 合、牛豚合い挽き 300 g、にんにく 1/2、トマトペースト大さじ 2、オールスパイス大さじ 2、粗塩大さじ 1 ~ 2、黒胡椒大さじ 1、コーン油大さじ 1、野菜くり抜き適宜
- C. コーン油大さじ 1、レモンデズ大さじ 1 ~ 2、粗塩大さじ 1、オールスパイス大さじ 1、お湯 500CC、ぶどうの葉 10 枚、野菜くり抜き適宜

### < 作り方 >

- ①材料 A のうち、ジャがいも、茄子、ピーマン、玉葱の中身をくり抜く。
- ② B の材料をボールの中で混ぜる。ボールの上でトマトをくり抜き、中身と汁を入れて混ぜる。
- ③ ②を①の中に 7 分目位まで詰める。小松菜と葡萄の葉で②を巻く。
- ④鍋の中に、オイルをひき、残った野菜のくり抜きや葡萄の葉を敷く。その上に、



中身を詰めた野菜を丁寧に並べる。隙間に小松菜や葡萄の葉を詰めて、できるだけ隙間ができないようにキチキチにする。

⑤鍋に詰めた野菜の上に葡萄の葉を敷き、その上に C のレモンデズ、粗塩、オールスパイスを振りかけ、平皿を落とし蓋に乗せる。お湯の様子を見ながら、皿の上から押しお湯が少し出てくるような感じになるまで入れる。

⑥最初は強火、煮立ってきたら中火にする。お湯が少量になるまで煮たら皿を外し、弱火にし、チリチリと焦げる感じになってきたら火を止める。

## J C F / 日本チェルノブイリ連帯基金

●本部 〒390-0303  
長野県松本市浅間温泉 2-12-12  
TEL 0263- 46- 4218 FAX 0263- 46- 6229  
E-mail jcf@jca.apc.org  
Website <http://www.jca.apc.org/jcf/>

●東京 〒164-0003  
東京都中野区東中野 4-4-1 ポレポレタイムス社気付  
TEL03- 3227- 1405 FAX03- 3227-1406  
●京都 〒607-8405  
京都府京都市山科区御陵田山町 13-3  
TEL075- 591- 7772